

和仏法律学校講義録

下村, 宏 / 赤司, 鷹一郎 / 矢作, 榮藏 / 加藤, 正治 / 栗
津, 清亮

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

2-17

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

43

(発行年 / Year)

1899-10-10

和佛清講 義錄

每月貳回

目次

第拾七號

海商法	自一〇九頁	法學士加藤正治
商法保險	自八七頁	法學士粟津清亮
經濟學	自二四頁	法學士矢作榮藏
財政學	自三〇九頁	法學士下村宏
商法商行為	自四一頁	法學士赤司廉一郎



090
1899
2-1-17

其毀損ニシテ人足解船夫等ノ過失ヨリ生セシモノナルトキハ其者ニ對シテ損害ノ求償ヲ爲スナリ而シテ積荷所有者ニ對シテハ船長ノ手代交渉ヲナシ積荷ノ滅失毀損ニ對スル損害ノ賠償ヲ爲スナリ然レトモ之カ爲メニ船長自ラ積荷ニ對スル運送契約ノ當事者ニ非サルナリ會社ニ依然トシテ運送人タル責任ヲ有スレトモ船長ニ於テ既ニ損害賠償ヲ請負ヒシ居ルカ故ニ唯便宜ノ爲メニ船長自身ノ手代ヨリ直接ニ荷主ニ對シテ辨償ヲ爲スナリ而シテ右ノ請負事業タル船長一人ニテ之ヲ爲スモノニアラス船員全體ニテ責任ヲ有スルモノニシテ若シ右ノ船長ノ受取リタル三朱ノ金高ニテハ積荷ノ損害ヲ賠償スルニ不足ナルトキハ其不足金ハ船長四分他ノ船員六分ノ割合ヲ以テ之ヲ支辨シ若シ積荷ノ損害賠償金其額少クシテ右三朱ノ内殘額アルトキハ船長四分他ノ船員六分ノ割合ヲ以テ分配セリト謂フ斯ノ如キ有様ナルカ故ニ積荷ノ滅失毀損ハ直接ニ船員ノ利害ニ關係セリ故ニ船員ハ積荷ノ取扱及ヒ保管等ニ付キテ最も十分ナル注意ヲ施スニ至レリト謂フ船員ノ監督十分ニ行キ届カス船内ノ紀律完カラサル時代ニアリテハ之カ爲メニ最も便利ナル方策ト謂フヘク又他方ニハ保

險制度ノ完備セラル時代ニアリテハ之ニ依リテ以テ保險ノ代用ヲモ爲スコトヲ得テ一舉兩得ノ策タリマナリ

右廻漕會社ハ明治四年驛遞局ノ管轄トナリ之ヲ郵便船會社ト改稱セシモ明治八年八月ニ至リ故アリテ解散シ之ニ先テ明治四年秋岩崎氏三菱會社ヲ起シ明治十五年十月共同運輸會社ノ成立アリ明治十八年九月右兩會社合併シテ現今ノ日本郵船會社トナリ之ニ先テ明治十七年大坂商船會社ノ設立アリ日清戰爭後東洋郵船會社ノ成立アリ其他沿岸小航海ノ郵船會社及ヒ一個人ニシテ海上運送ヲ業トスルモノ尠カラス故ニ現今ノ海商組織ニ於テハ船舶所有者運送人積荷當事者荷受人及ヒ船員ノ三者各獨立分科セテ其間ニ法律關係ヲ有スルノ域ニ達シタルモノト謂フヘシ又海上保險ニ付テモ全國既ニ四大會社ノ設立アリテ保險契約ハ嫌シニ行ハル是レ亦海商法律關係ノ重要ナル一部ヲ構成スルモノト謂フヘシ

海商法ノ立法ノ準備ハ商法中他ノ部分ト共ニ明治十四年商法編纂局ヲ設ケテ之ヲ始メ該局ハ寺島伯其長トナリ獨逸人ロエスレル氏起草委員タリ二十年廣

局トナルヤ之ヲ法律取調局ニ引繼キ遂ニ其調査ヲ了リ二十三年三月二十七日法律第三十二號トシテ舊商法ヲ發布セリ該法ハ二十四年一月一日ヨリ施行スル筈ナリシカ二十三年十二月二十六日法律第百八號ヲ以テ二十六年一月一日ヨリ施行スルコトニ延期セリ然ルニ又更ニ二十五年十一月法律第八號ヲ以テ民法法例ト共ニ修正ノ爲メ二十九年十二月三十一日マテ其施行ヲ延期シ修正セリタル分ヨリ漸次之ヲ實施スルコトトセリ而シテ二十六年三月法律第九號ヲ以テ第一篇第二章第四章第六章會社法第十二章手形法及ヒ第三篇破産法ニ修正ヲ施シ二十六年七月一日ヨリ實施セリ(其中第二章ト第四章トハ會社ニノミ之ヲ適用ス而シテ他ノ部分殊ニ海商篇モ亦未タ其修正成ラザリシカ故ニ二十九年十二月二十八日法律第九十四號ニ依リ三十一年六月三十日マテ其施行ヲ延期セリ而シテ同日マテニハ商法修正案ヲ議會ニ提出シ之ヲ通過セシメテ法律トナシ同年七月一日ヨリ施行スル筈ナリシニ三十年十一月開會ノ第十一開會ヘ提出セル商法第一修正案ハ議會ノ解散ト共ニ成立セス又三十一年五月開會ノ第十二議會ヘ提出セル第二修正案モ亦議會ノ解散ト共ニ成立セス仍テ政

府ハ條約實施ノ準備上已ムコトヲ得シテ七月一日ヨリ舊商法ヲ施行セリ然ルニ三十一年十二月開會ノ第十三議會ヘ提出セル第三修正案ハ始メテ兩院ヲ通過シ法律第四十八號トシテ三十一年三月九日ヲ以テ世ニ發布サレ同年六月十六日ヨリ之ヲ實施セリ而シテ舊商法ハ第三篇ヲ除ク外同時ニ之ヲ廢止セリ尤モ舊商法ハ廢止セラレタルモノ、新法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ原則トシテハ舊法ヲ適用スルカ故ニ今後暫クノ間ハ舊法モ尙ホ之ヲ研究スルノ必要アリトス(商施第一條)

第三章 海商法ノ地位并ニ特質

航海ニ關スル總テノ法規ヲ稱シテ海上法ト謂フ而シテ航海ニハ必ス船舶ヲ要スルカ故ニ此種ノ意義ニ於ケル海上法ノ適用ヲ受クル船舶ハ其範圍最モ廣クシテ營利ヲ目的トスル船舶例ヘハ商船、漁船、捕鯨船、探險船、挽船、駁船等ノミナラス營利ヲ目的トセサル船舶例ヘハ軍艦、探險船、海術研究ノ爲メニ發スル航海底電線建設用船、測量用船、遊船等皆其中ニ包含スルモノトス

船舶カ法規ノ適用ヲ受クルト謂フハ是レ語ヲ簡ニスルマテノ事ニシテ其船舶

ニ關シテ生スル法律關係カ法規ノ適用ヲ受クルニ外ナラス而シテ船舶又ハ航海ニ關スル法律關係中其性質公法的ノモノアリ私法的ノモノアリ又國際的ノモノアリ換言スレハ國家ノ個人ニ對スル權力服從ノ關係ニ基クモノアリ私人平等者間ノ關係ニ基クモノアリ又多數國家相互ノ關係ヲ定ムルモノアリ故ニ海上法ハ之ヲ分チテ海上公法、海上私法及ヒ海上國際法ノ三種トナスヲ通例トス海上公法ノ規定スル所ハ船舶ノ國籍、測量、檢査、登記、船稅、噸稅、衝突豫防、船員ノ取締、水先、航海獎勵等ノ事項ニ在リトス而シテ現行成法中ノ之カ主タルモノヲ列舉スレハ船舶法、船員法、船舶登記規則、海上衝突豫防法、水先法、航海獎勵法等ナリトス海上國際法ノ規定スル所ハ航海ニ關スル諸條約、局外中立、封鎖、捕拿、戰時禁制品、航海ニ關スル領事ノ職務等ノ事項ニ關シ一例ヲ舉クレハ我國カ明治二十年三月ノ無號勅令ヲ以テ加盟シタル千八百五十六年四月十六日ノ海上法要義ニ關スル巴里宣言ノ如キハ即チ是ナリ而シテ海上私法トハ航海ニ關スル私法ノ規定ノ總稱ナルカ故ニ其中ニハ民法、商法、商慣習法等ノ一部ヲ包含シ海商法ハ實ニ其最モ重要ナル一部ナリトス

海上法ハ又之ヲ分チテ平時法ト戰時法トノ二種トナス平時法トハ畢竟吾人カ平和的ノ共同生活ヲ爲ス間ノ要件ニシテ增長無限ナル人慾ニ制限ヲ加ヘテ之ニ規矩準繩ヲ與フルモノナリ若シ此制限無クシハ社會ハ永久戰爭ニ終ルモノナリ而シテ戰時法トハ一面ヨリ見レハ平和ニ復歸スルマテノ過渡法ニシテ其中ニハ戰爭國并ニ中立國ノ權利義務ノ關係ヲ規定スト雖モ又戰爭ノ開始カ私人間ノ法律關係ニ如何ナル効力ヲ及ホスカヲ規定ス是レ又海上私法ニ於テ說明スヘキ所タリ

海上私法ハ又其適用セラル、効力ノ範圍如何ニヨリ之ヲ普通法一般法特別法ノ三種ニ分ツコトヲ得是レ獨逸學者ノ一般ニ採用スル所ナリ蓋シ獨逸聯邦ノ法律組織ニ於テ大ニ其必要ヲ見レハナリ普通法トハ其法律タル形式ニ於テハ各邦之ヲ異ニシ各邦ノ特別法タル形ヲ爲スモ規定ノ實質ニ至リテハ各邦皆同一ノ法規ヲ有スルモノヲ謂フ所謂「アイマルユニチー」ヲ缺クモ「マテリアルユニチー」ヲ有スル法律ヲ謂フ一般法トハ共同ノ法律的事實ニ基キテ發シタル法律ニシテ各邦ヲ通シテ形式及ヒ實質ヲ同シウスルモノヲ謂フ特別法トハ形式并ニ

實質ヲ異ニシ各邦ノミニ効力ヲ有スル法律ヲ謂フ而シテ是レ獨逸聯邦ニ於ケル分類法ナリト雖モ移シテ以テ世界諸國ノ法律ノ上ニモ亦之ヲ採用スルコトヲ得海商法ノ如キハ其特質トシテ稍々世界ニ於ケル普通法タルノ觀アラントス其事ハ尙ホ後ニ之ヲ説明スヘシ

海上私法ハ航海ニ關スル私法的關係ノ規定ニシテ私法的關係ノ航海ハ之ヲ營利ノ目的ヲ以テスルモノト營利以外ノ目的ヲ以テスルモノト二種ニ分ツコトヲ得而シテ諸國ノ海上私法ハ先ツ營利ノ目的ヲ以テ航海スルモノニ付テ發達シ之ヲ營利以外ノ目的ヲ以テ航海スルモノニ準用セリ營利ノ目的ヲ以テ航海スル場合ハ又之ヲ分チテ二種トナスコトヲ得即チ一ハ海上ノ產物ヲ原始的ニ取得シテ以テ利益ヲ收メントスルモノ例ヘハ漁獵ヲナレ又ハ海藻ヲ採取スルヲ以テ目的トスル所ノ船舶ノ如キ是ナリ一ハ商行爲ヲ爲スノ目的ヲ以テスルモノニシテ運送營業者ノ船舶主トシテ之ニ屬スルナリ我新商法ハ第一第二ノ修正案ニ於テハ汎ク營利ノ目的ヲ以テ航海スル船舶ヲ以テ海商法ノ目的物トナセリト雖モ確定法文ニ於テハ其範圍ヲ狹少ニシ獨リ商行爲ヲナスヲ以テ目

のトスル船舶ノミヲ以テ其適用ノ範圍トセリ故ニ之カ適用ヲ受クルハ主トシテ運送船ニ限ラレ海商篇ノ規定ハ特殊ノ發達ニ基ク保險法ノ部分ヲ除キテハ殆ント海上運送法タルノ觀ナキニアラス故ニ船舶積荷及ヒ船員ノ三者ハ海商法上ノ研究ノ目的物ニシテ之カ利害關係者タル船舶所有者賃借人積荷當事者(荷受人)荷受人及ヒ船員ノ三者間ノ法律關係ハ即チ海商法ノ規定セントスル所ノモノナリ故ニ或獨逸學者ノ如キハ保險ノ部分ヲ除キ海商法ノ規定ヲ物法主トシテ船舶ニ關スル規定人法主トシテ船員ニ關スル規定債權法主トシテ積荷ニ關スル規定ノ三部ニ分チテ之ヲ論セリ

海上保險法タルヤ經令經濟上ニ於テハ海商法ノ他ノ部分ト密接ノ關係ヲ有セ殊ニ其發達ニ非常ナル影響ヲ與ヘタルコト疑ナシト雖モ二者之ヲ分離シテ考フルコトヲ得蓋シ保險ハ純然タル契約關係ニシテ航海ノ危險ニ付キ金錢ニ易積リ得ヘキ利害ヲ有スル者ト保險者トノ間ニ締結スルモノニシテ其目的タルヤ保險契約者ハ少額ニシテ必然ナル損失ヲ爲シテ巨額ニシテ不知ノ損失ヲ被ムルコトヲ拒避セントスルニ在ルナリ故ニ海上保險契約ハ海商のノ私法關係

存在シテ始メテ其上ニ成立スルコトヲ得ルモノナリ換言スレハ海商關係ヲ前提シテ海上保險契約ハ成立スルナリ夫ノ「ワグネル」氏等カ海上保險法ハ二方面のノ海上法ナリト謂ヒテ他ノ部分ト區別シタルモ畢竟保險契約ハ當事者間ニ効力ヲ有スルニ止リ海商篇ノ他ノ部分ト其趣キヲ異ニスルコトヲ言ヒタルニ外ナラス英國ノ商船法ノ如キモ保險ノ規定ハ之ヲ除外セリ我商法カ同一篇中ニ該規定ヲ包含セシメタルハ畢竟便宜ノ立法アルノミ

海商法ノ特質ハ大ニ其世界的ナルニ在リ換言スレハ諸國能ク其規定ノ實質ヲ同シラスルニ在リ夫レ萬法ハ一ニ歸スルノ論ハ穗積博士ノ持論ニシテ嘗テ法學協會雜誌第十二號ニ於テ唱道セラレタルコトアリ凡ソ法律カ國毎ニ異ルハ各其國ノ地勢人情風俗習慣氣候宗教歴史等ノ異ナルカ爲メノミ然ルニ萬國交通ノ道開ケテ他國ノ法律其者ヲ互ニ繼承スルニ至リタルノミナラス人文開化ノ程度風俗習慣等モ漸次同一トナリ隨テ其反影タル法律モ亦必要上同一ニ歸着スルニ至ル傾向アルハ洵ニ怪ムニ足ラサルナリ國際法學者ブルンチユリー氏ハ嘗テ萬國ヨリ委員ヲ派出シテ萬國ニ對シテ法力アル國際法典ヲ編纂セシコ

トヲ主張セシコトアリキ其說ハ當時行ハレザリシト雖モ國際法ナルモノハ萬國ノ承認スル所トナレリ國際公法ノ規定ハ云フニ及ハス國際私法ニ於テモ萬國同一ノ原則ヲ採用スルモノ枚擧ニ違アラス夫ノ英國ノ如キ世界到ル所ニ領土ヲ有シ極メテ廣大ナル版圖ヲ有スルニモ拘ハラズ版圖内各殖民地等ヨリ委員ヲ派出シテ全國ニ通シテ施行スヘキ商法典ヲ編纂セントノ意見ハ商業會議所其他法曹社會等ニ於テ毎々唱道セララル所ナリ若シ該法典ノ編纂アランカ世界ノ廣キ版圖内ニ同一法典ノ施行セララルモノト謂フヘシ又獨逸聯邦ノ如キモ其始メハ各聯邦皆特種ノ法律ヲ有シ不便ニ堪ヘザリシカ遂ニ關稅同盟ヨリ其端ヲ發シ次ニ手形法ニ及ホシ今日ニテハ民法商法刑法等總テ帝國全體ニ通スル法典ヲ有スルニ至レリ又佛法系ニ屬スル諸國ノ民法ノ如キハ佛國ノ民法典ヲ基礎トシテ編纂セシモノナルカ故ニ規定ノ實質ニ至リテハ略ホ皆同一ナリトス近クハ我舊民法ノ如キモ亦然リ此ノ如ク法ノ統一ヲ得ル現象ハ枚擧ニ違アラス要スルニ法ノ形式の統一ヲ得ルコトハ今日ノ場合尙ホ未タ之ヲ望ムコトヲ得サルモ法ノ實質的統一ハ若々行ハレツ、アリ就中私法ノ部分ニ於

テ然リトス公法ノ部分ニ於テハ英國ノ代議制度ノ如キハ往々他國ニ採用セラレ又獨逸ノ自治制度ノ如キハ我國ニテモ亦之ヲ採用シタリト雖モ公法ハ固ト各國家ノ施政ノ方針ヲ定ムルモノニシテ彼ノ個人相互ノ權利關係ヲ調訂スルノ比ニアラス殊ニ各國崎立シテ相對峙スルノ時代ニアリテハ各其特徵團體等ヲ維持セサルヘカラス隨テ公法ノ部分ニ於ケル統一ハ容易ニ望ムヘカラス若シ往昔羅馬カ世界ヲ一統シ又近クハ佛帝奈翁カ世界一統ヲ計リシカ如ク世界カ同一帝國ノ下ニ立ツコトヲ夢想セハ公法ノ形式の統一マテモ行ハルヘシト雖モ然ラズンハ實質的統一タモ頗ル難シトス反之私法ノ部分ニ於テハ交通ノ頻繁ナルト共ニ互ニ承繼セラレ就中商法ハ私法ノ中ニ於テモ最モ進歩シタル法律ナルカ故ニ諸國各其長ヲ採テ其短ヲ補ヒ漸次其規定ヲ同シウシ商法ノ中ニテモ海商法并ニ手形法ノ如キハ又最モ然リトス蓋シ此二法ノ如キハ諸外國民ノ交通貿易ノ上ニ於テ用非ラズ、コト最モ多ケレハナリ是レ實ニ海商法ノ特質ハ世界のナリト謂フ所以ナリ隨テ我新商法ニ於テモ外國ノ立法例ハ勿論萬國商法會議ノ議決等ハ悉ク之ヲ參酌シ就中海商篇ノ規定ハ可成外國

本論

第四章 船舶

第一節 船舶ノ性質并ニ其種類

汎ク船舶トハ如何ナルモノヲ謂フカ之カ定義ヲ與フルコトハ頗ル難シ猶ホ土地建物等ノ性質ヲ一言ノ下ニ云ヒ表ハスノ難キニ異ナラサルナリ且ツ又觀察點ノ異ナルニヨリテ之カ定義ノ異ナリ來ルハ自然ノ數ナリ故ニ船舶ニ付テモ如何ナル形體設備ヲ必要トスルカ又動力、帆力、櫓槳等ニ依リテ航行スルニ足ルタケノ準備ヲ必要トスルカ又如何ナル器具、機械ノ範圍マテカ當然船舶其物ノ中ニ包含サレ其以外ハ單ニ屬具ニ止マルカ等ノ如キ點ニ付テハ行政法等ニ於テ特ニ規定ヲ設ケアルモノハ格別其他ハ皆造船學若クハ慣習ニ依リテ定マル所ニ一任セサルヘカラス故ニ我新商法カ海商篇ノ首條即チ第五百三十八條第一項ニ於テ船舶ノ定義ヲ與ヘタルカ如シト雖モ是レ未タ以テ汎ク船舶ノ定義ヲ與

ヘタリト謂フコト能ハサルハ勿論一步進ンテ嚴格ニ云ヘハ海商法ニ所謂船舶ノ定義ナリト謂フコトモ亦稍々難シスル所ナリトス何トナレハ該條ニ所謂航海ノ用ニ供スルモノヲ謂フモノトハ即チ船舶ノ略ニ外ナラス若シ重キテ船舶ナル文字ヲ用井ルトキハ語調極メテ拙劣ニ見ユルカ故ニ斯クノ如ク謂ヒシノミ故ニ該條ハ船舶其物ニ付テハ何等ノ説明ヲ與ヘス若シ又モノト謂フ文字ヲ解シテ普通ノ物、又ハ者ノ意ニ解スルトキハ海商法上商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スル物、又ハ者ハ船舶ノ外ニ尙ホ夥多之レアルヘク該條ハ益々解スヘカラサルモノトナレハナリ要スルニ第五百三十八條ハ船舶其物ニ付テハ何等ノ説明ヲ與ヘス船舶其物ノ形體性質如何等ハ總テ造船學慣習若クハ他ノ法令等ノ定ムル所ニ一任シ其中ニ就テ特ニ如何ナル要件ヲ具備スルモノカ海商法上ノ船舶タルカヲ定メタルナリ換言スレハ海商法ニ所謂船舶ノ範圍ヲ限定シタルナリ船舶ニ付テハ何等ノ定義ヲ與ヘス故ニ造船學慣習等ニ暗ラキ余輩ニ於テモ亦汎ク船舶ニ對スル定義ヲ下スコトヲ敢テセス又之ヲ下スコトノ甚シキ必要ヲ見サルナリ若シ強ヒテ海商法研究ノ便宜ノ爲メニ第五百三十八

條ニ做ヒテ廣義ノ船舶ノ範圍ヲ言明スレハ水上航行ノ用ニ供スルモノヲ謂フノ外ナシ是レ云フマテモナク船舶ノ定義ニアラス又他物ト區別スル爲メノ特徵ニアラス唯後節ニ於テ海商法ニ所謂船舶ノ範圍ヲ説明スルニ當リ範圍ノ廣狭ヲ示ス爲メノ前提ト爲サンカ爲メノミ

右ノ如ク船舶ノ定義ハ之ヲ與ヘサルモ之カ法律上ノ性質ヲ研究スレハ吾人ノ目的ハ足レリ故ニ今左ニ其要點ノ二三ヲ示スヘシ

一、船舶ハ動産ナリ 船舶ハ航行ノ用ニ供スルモノニシテ船體カ動カサル如クニテハ其用ヲ爲サ、ルヘキカ故ニ動産ナルコトハ最モ明白ナリ(民法第八六條第一項)此ノ如ク今日ノ法律思想ニ於テハ船舶ハ動産タルコトヲ何人モ疑ハスト雖モ或ハ概シテ其價ノ骨キ點ヨリ或ハ容易ニ其所有者ヲ變セサル點ヨリ其他後ニ述フルカ如キ種々ノ事情ヨリ不動産ニ類似スルコト多キカ故ニ古昔ニ於テハ往々ニシテ之ヲ不動産ノ中ニ算シタルコト無キニアラス此ノ如キ沿革上ノ理由アルニ依リ其性質上動産タルコト明白ナルニ拘ハラヌ千六百八十一年ノ佛國海事勅令ヲ始メトシテ近世諸國ノ立法例ハ世人ノ疑ヲ解クカ爲メニ

船舶ハ動産ナリト謂フコトヲ法典ニ明示スルヲ常トスルニ至レリ我舊商法モ其例ヲ襲ヒ第八百三十四條ニ於テ商船其他ノ海船ハ之ヲ動産トス但本法ニ例外ヲ定メタル場合ハ此限ニ在ラスト明言セリ然レトモ前述セル如ク今日ノ法律思想ニ於テ何人モ其動産タルコトヲ疑フモノナク殊ニ民法ノ制定アリテヨリ一層明白トナリタルカ故ニ新商法ハ決シテ斯カル贅文ヲ保存セス殊ニ舊商法ノ但書ハ文字極メテ拙ニシテ法律カ時トシテ船舶ニ動産タル性質ヲ失ハシメ不動産ト視ルコトアルカ如ク思ハシムル感アリ然レトモ立法ノ主意ハ不動産ト看做スニアラスシテ不動産ト同一ノ規定ニ從ハシムルコトアルヲ豫想シタルノミ故ニ新商法カ之ヲ削除シタルハ頗ル至當ナリトス

二、船舶ハ不動産ニ類似ス 前述シタル如ク船舶カ動産タルコト最モ明白ナルモ經濟上公益上其他沿革上等ヨリシテ不動産類似ノ取扱ヲ受ケ普通ノ動産ト異ナル規定ノ適用ヲ受タルコトハ極メテ多シ今其二ノ點ヲ列擧スレハ
(イ)不動産物權ノ得喪及ヒ變更ハ不動産登記法ノ定ムル所ニ從ヒ其登記ヲ爲スニアラサレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス民法第一七七條之ト同シ

ク船舶所有權ヲ得タルモノモ亦船舶登記規則ニ從ヒ登記ヲ爲シ船舶國籍證書ヲ請受ケサルヘカラス又船舶所有權ノ讓渡ニ付テモ其登記ヲ爲シ且船舶國籍證書ニ之ヲ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス新商法第五四〇條第五四一條

(ロ) 抵當權ノ目的トナルモノハ不動産ニ限ル民法第三六九條然ルニ船舶若クハ製造中ノ船舶ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得新商法第六八六條第六八九條
 (ハ) 不動産ノ賃貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其不動産ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其効力ヲ生スルト同シタ(民法第六〇五條船舶ノ賃貸借モ亦之ヲ登記シタルトキハ爾後其船舶ニ付キ物權ヲ取得シタルモノニ對シテモ其効力ヲ生スルナリ(新商法第五五六條)

(ニ) 船舶ニ對スル強制執行并ニ競賣ハ原則トシテハ不動産ト同一ノ規定ニ從フ(民事訴訟法第七一七條以下競賣法第三九條)

(ホ) 國際法ニ於テハ學者往々船舶ヲ以テ國土ノ延長ナリトシテ船舶内ニ行ハルル主權ノ説明ヲ爲スコトアリ亦以テ船舶ヲ土地ト同一視スル思想ノ一端ヲ知

ルニ足ル

三、船舶ハ人ニ類似ス 英米ノ訴訟法ニテハ船舶ヲ以テ恰モ人格アルモノ、如ク看做シ船舶ニ對スル債權アル者例ヘハ船舶ニ對シテ修繕費ヲ掛ケタル者又ハ船舶ノ衝突ニ因リ損害ヲ受ケ之カ賠償ノ請求權ヲ有スル者ノ如キハ船舶所有者ヲ相手取ラス船舶其物ヲ相手取リテ直チニ訴訟ヲ提起スルコトヲ許ス之ヲ對物訴訟ト云フ而シテ船舶自體カ義務履行ノ責任シ又ハ私犯ノ責ヲ負フヘキ判決ヲ受ケ該判決執行ノ爲メニ裁判所ハ船舶ヲ賣却シテ其代價ヲ以テ之ニ充ツ彼ノ後ニ述ル如ク船舶カ名稱ヲ有シ國籍ヲ有シ船舶港ヲ有スルコト) 如キハ英米ニテハ右ノ如キ特殊ノ訴訟手續行ハル、カ爲メニ其管轄ヲ定ムルコト等ニ付テ特ニ其必要ヲ見ル所ノモノナリ我國ニテハ斯ル訴訟手續行ハレスト雖モ而カモ舊商法ノ第八百四十九條以下ニ於テハ船舶所有者カ責任ヲ負擔スト云ハスシテ船舶カ責任ヲ負フト言ヒ新商法ニ於テモ舊法ヲ襲フテ第六百八十條以下ニ於テ船舶債權者ナル名稱ヲ用非恰モ船舶自體カ債務ヲ負ヒ責任ヲ荷フモノタルカ如キ語調ヲ用非ル所以ノモノハ畢竟船舶ヲ法人類似ニ取

扱ヒタル沿革上ノ理由ニ基カスンハアラサルナリ之ニ付テ序ナカラ一言セシ
 ニ新商法カ船舶債權者ト題セル章下ノ規定ハ船舶ノ上ニ存スル先取特權質權
 抵當權ノ規定ニシテ民法ノ物權篇等ノ配列ノ例ニ從ヘハ船舶所有權ノ規定ノ
 後ニ列スヘキモノナリ故ニ舊商法ハ船舶并ニ船舶所有者ノ規定ノ後ニ此等物
 上擔保ノ規定ヲ置ケリ新商法ハ共同海損保險運送等各種ノ債權發生ノ原因ヲ
 規定シテ明瞭ナラシメタル後之カ物上擔保ノ規定ヲ最後ニ設ケタルハ便宜ノ
 配列法トシテハ必スシモ不可ナル所ナシト雖モ船舶債權者ナル名稱ハ稍々舊
 套ヲ墨守シタルノ觀ナキニアラス要スルニ船舶ヲ法人類似ニ取扱ヒタル形跡
 ハ沿革上往々ニシテ之レアリ尙ホ此他船舶カ實際上人ニ類スル點ヲ列舉スレハ
 (イ) 船舶ハ名稱ヲ有ス猶ホ人カ姓名ヲ有スルカ如シ而シテ其名稱ハ之ヲ船舶ニ
 標示シ一旦定メタルモノハ管海官廳ノ許可ヲ受クルニ非スンハ之ヲ變更スル
 コトヲ得ス(船舶法第七條第八條)

(ロ) 船舶ハ國籍ヲ有ス猶ホ人ノ國民分限ヲ有スルカ如シ他ノ動産ニアリテハ決シ
 テ然ルモノアルナシ何カ故ニ船舶ニハ國籍ヲ必要トスルカ是レ他ナシ船舶内ニ

ハ一國ノ主權行ハレ諸外國ノ間ニ往來シテ日毎ニ國際關係ヲ生スルノミナラ
 ス各國其政策トシテ造船及ヒ航海業ノ擴張ヲ計リ自國船ニハ特ニ獎勵金又ハ
 種々ノ特權ヲ與ヘ此他關稅船稅等納稅ノ上ニ於テモ常ニ彼我ノ區別ヲ設ケル
 ニ由ル而シテ如何ナル資格アル船舶ヲ以テ果シテ日本船舶トシ又ハ日本船舶
 トスルコトヲ許スカノ問題ハ猶ホ如何ナル人ヲ日本人トシ如何ナル人ニ歸化
 ヲ許スカノ問題ト略ホ其例ヲ同シウシ畢竟一國ノ採ル所ノ政策ニヨリテ決ス
 ヘキモノトス而シテ人ニ付テハ我國既ニ國籍法ノ定メアルト均シク船舶ニ付
 テハ船舶法ニ於テ既ニ其規定アリ仍テ之ニ付テハ尙ホ後ニ説明スル所アルヘ
 シ(船舶法第一條)

(ハ) 船舶ハ船舶港ヲ有ス猶ホ一般ノ人カ住所ヲ有シ商人カ營業所ヲ有スルニ異
 ナラス而シテ船舶港ヲ定ムヘキコトハ法律ノ要求スル所ニシテ之ヲ定メタル
 トキハ船舶ニ關スル私權證明ノ登記モ國籍證明ニ關スル登錄モ皆船舶港ヲ管
 轄スル區裁判所又ハ管海官廳ニ於テ之ヲ爲スナリ船舶登記規則第二條船舶法
 第四條第一項前段第五條其他船舶港ノ作用タル船舶所有者ニ取リテハ商人ノ

營業所ニ該當シ船舶所有者ノ該船舶ニ關スル營業ノ中心ヲナシ獨逸法ニ從ハ船舶所有者カ船舶營業ヨリ生シタル債務ハ總テ船舶港管轄ノ裁判所ニ訴ヲ提起スヘキモノニシテ船舶所有者カ船舶及ヒ運送貨ノミヲ以テ責任ヲ負フ場合タルト又ハ無限責任ヲ負フ場合タルト又ハ船舶共有者カ他ノ共有者ヲ負フ場合タルト將タ第三者カ訴フル場合タルト問ハサルナリ唯救援救助ノ報酬額確定ニ付テハ一ノ例外ヲ爲スモ一旦其額確定シタル後ニ在リテハ是レ亦船舶港裁判所ニ訴ヘサルヘカラス此ノ如キ專屬管轄ノ原則ハ佛國ニテモ亦明文ノ存スル無キモ學者并ニ裁判所ノ今日マテ承認スル所ナリ然レトモ我國ニテハ未タ認メラレス

四船舶ハ主物及ヒ從物ヨリ成ル 船舶ハ航海ヲナスヲ以テ其職トスルカ故ニ唯船體ノミアリタルニテハ其用ヲ爲サス或ハ種々ノ屬具ヲ必要トスヘク或ハ燃料糧食等ノ貯藏ヲモ必要トスヘシ然ルニ船舶ノ賣買讓與等ノ處分アリタル場合ニ屬具ノ如何ナル範圍マテカ當然新取得者ニ移轉スルカ舊商法第八百三十八條ハ規定シテ曰ク船舶ノ所有權ハ別段ノ契約アルニ非サレハ航海ノ爲メニ

スル總テノ艤裝物殊ニ桅檣帆具綱具機關碇鑿船用器具艀舟貯蓄品及ヒ糧食ノ所有權ヲ包含ス但船長又ハ海員ノ一身ニ屬スル所有物ハ此限ニ在ラスト然レトモ本條ハ航海ノ爲メニ必要ナル艤裝物ノ重ナルモノヲ例示シタルニ止リ未タ以テ其全體ヲ盡セリト云フコトヲ得ス又別段ノ契約アルニ非サレハ云々ト云ヒテ契約ニ因リテ船舶所有者權ノ取得若クハ移轉アル場合ノミヲ豫想セシカ如ク思ハル、雖アリ且ツヤ斯ル艤裝物ヲシテ當然船舶所有者權ノ中ニ包含スルモノト法定スルノ必要ナシ若シ其包含スルモノトスル必要アル場合ハ即チ艤裝物ヲ從物トシテ主物ノ處分ニ從ハシムレハ足レリ且ツ屬具目錄ナルモノハ法律カ強制シテ船中ニハ必ス之ヲ具ヘ附ケ置クコトヲ必要トシ新商法第五六二條第一項船員法第四九條第一號其屬具目錄ノ中ニハ航海ノ爲メニ必要ナル艤裝物ハ舉ケテ漏ラス所無ク舊商法ノ如ク例示的ノ規定ヲ設ケテ其餘ハ事實問題ニ一任スルヨリモ優ルコト萬々ナルカ故ニ新商法ハ該規定ヲ改メテ左ノ如ク言ヘリ曰ク船舶ノ屬具目錄ニ記載シタル物ハ其從物ト推定スト(新商法第五三九條是レ能ク右ノ缺點ヲ補ヒ得タルモノト謂フヘシ屬具目錄トハ今日ノ實際

ニ於テハ根拠帳ト稱シ甲板部事務部機械部ノ三部ニ分テテ極メテ詳細ニ記載スルヲ常トス若シ船舶ノ賣買讓與アルトキハ屬具目錄ニ依リテ實物ト對照シ以テ之ヲ引キ繼クヲ常トス故ニ屬具目錄ノ記載不整頓ニシテ實物ト相一致セズ又ハ脫漏等多キモノニアリテハ船舶ノ價格自ラ低廉ナルヘキハ至當ノ事タリ故ニ船舶所有者ハ自己ノ利害ノ休戚上屬具目錄ノ記載ヲ最モ正確且ツ詳密ナラシムルハ自然ノ理ナリ蓋シ人ハ利害ノ點ヲ以テ拘束スルホト効力多キモノ無ケレハナリ尙ホ屬具目錄記載ノ書式ハ新商法實施以後ハ遞信大臣ニ於テ之ヲ定ムルコト、ヒリ故ニ今後ハ其記載事項モ一定シテ一層正確ノモノトナルヘキナリ(商施第一三〇條)而シテ主物從物ノ區別ハ民法第八十七條ニ依リテ定マリ從物ハ主物ノ處分ニ從フヘキモノトス然ルニ屬具目錄ニ記載シタルモノハ必スシモ法律ニ所謂從物ノミニ限ラス例ヘハ常用ニ供セス臨時ノ使用ニ供フルモノモアルヘク又船舶屬具ノ如キハ往々破損シ易キモノナルカ故ニ他船舶ノ屬具ヲ借用スルコトモアルヘシ故ニ從物ト推定スト規定シタルナリ然レトモ既ニ屬具目錄ニ記載セシモノ、如キハ該船舶ノ常用ノ爲メニ該船舶所有者

カ附屬セシメタリト見ルヘキハ最モ至當ノコトナルカ故ニ之ニ對シテ爭ハシトスル者ヨリ反對ノ證據ヲ舉クヘキモノトシタルナリ

吾人ハ以上ニ於テ船舶ノ性質ヲ略ホ説キ了リタルカ故ニ左ニ船舶ノ種類ヲ説明スヘシ而シテ其種類ハ觀察點ノ異ナルニ因リテ種々ニ之ヲ分ツコトヲ得ヘシト雖モ吾人ノ研究ニ最モ利益アルモノ、ミヲ掲クヘシ

一船舶ヲ其使用ノ目的ニヨリテ區別スレハ之ヲ營利ノ目的ニ供スルモノト然ラザルモノトノ二種ニ大別スルコトヲ得レ其分類中ノ最モ重要ナルモノナリ營利以外ノ目的ヲ以テ使用スル船舶ノ中ニハ軍艦、軍用運送船、通信省ニテ海底電線架設其他類似ノ目的ニ使用スル幾多ノ船舶學術研究若クハ北極探検等ノ目的ニテ發スル船舶航海術練習船、遊船等アリ營利ノ目的ヲ以テ使用スル船舶ハ之ヲ商行爲ヲ爲スコトヲ以テ目的トスルモノ(商船)ト然ラザルモノトノ二種ニ細別スルコトヲ得而シテ商行爲以外ノ營利ノ目的ヲ以テ使用スル船舶ノ主タルモノハ漁船ナリトス

二海商法ノ適用若クハ準用ヲ受クル船舶ト然ラザルモノトノ區別ハ後節ニ於

ヲ之ヲ詳述スヘシト雖モ今茲ニ之ヲ一言スレハ海商法ノ適用ヲ受クル船舶ノ範圍ハ新商法第五百三十八條ニ依リテ定マレリ即チ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テ航海ノ用ニ供スルモノ、中端舟其他權ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ權ヲ以テ運轉スル舟ヲ除外シタルモノ是ナリ又海商法ノ適用ヲ受クル船舶ノ範圍ハ船舶法附則第三十五條ニ依リテ定マレリ同條ニ曰ク商法第五篇ノ規定ハ商行為ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラズト故ニ漁船學術研究北極探檢船娛樂遊船等ノ如キハ皆海商法ノ適用ヲ受クル部類ニ屬スルナリ

三船舶ヲ其國籍ニ依リテ分類スレハ日本船舶ト外國船舶トノ二種トナスヘシ而シテ如何ナル資格アルモノヲ以テ日本船舶トスルカハ後ニ之ヲ詳述スヘシト雖モ其日本船舶タルト外國船舶タルトニ因リ權義ノ上ニ非常ナル差異アリ彼ノ船舶法ノ如キハ全ク日本船舶ノ特權并ニ義務ヲ規定シタル法律ナリ即チ特權ノ主タルモノヲ列舉スレハ日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲クルコトヲ得ス又日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又

被保險者タルノ資格ハ被保險利益ヲ有スルニ在リ被保險利益ニ付テハ藝ニ詳述セルカ故ニ茲ニ茲ニ贅セズ家屋ノ所有者ハ該家屋ノ存亡ニ付テ利害ノ關係ヲ有スルカ故ニ被保險者タルヲ得ル如ク吾人ハ自己ノ生命ノ存亡ニ付テ利害ヲ被ルコトアルカ故ニ之カ保護ヲ受ケンカ爲メニ被保險者タルヲ得ルナリ自己ノ生命ノ存亡ニ由リテ利害ヲ被ルトハ一見奇怪ノ感アルヘシト雖モ例ヘハ吾人カ七拾歳マテ生存スルトキハ生活力衰耗シテ勞務ニ服スルコト能ハサルカ故ニ養老金ヲ要スルカ如キ或ハ死亡シテ損害ヲ惹起スカ如キ即チ是ナリ或ハ曰ハン彼カ死亡シテ損害ヲ惹起スト雖モ之ヲ受クル所ノ自身ハ已ニ死セルカ故ニ死者カ損害ヲ受クルト云フハ想像スヘカラサルコトナリト然リ死者自身ハ損害ヲ受ケント欲スルモ得ヘカラスト雖モ死者ノ相續者ハ之ヲ受タヘキコト當然ニシテ而モ相續者ナルモノハ死亡前ニ確定セラレザル場合最モ多キカ故ニ死者ハ生前自身ニ被保險者タルヲ得ルトセルナリ

然リ而シテ人ハ自己ノ生命ニ付テ利害ヲ有シテ被保險者タルヲ得ルト同時ニ

他人ノ生命ニ付テ利害ヲ有スル場合頗ル多シ例ヘハ親カ子ノ生存ニ利益ヲ受ケ妻カ夫ノ死亡ニ付テ損害ヲ被ル場合ノ如シ此ノ如キ場合ニハ親又ハ妻カ被保險者ナラサルヘカラサルヲ至當トスト雖モ我國ノ習慣及ヒ法律ニ於テハ此ノ如キ場合ニ於ケル親妻等ヲ被保險者ト曰ハス被保險者ナル文字ハ必ス死亡ニ存ノ主體タル生命ノ所有者即チ此場合ニ於ケル子若クハ夫ヲ指スモノトセリ是レ生命保險以外ニ於ケル被保險者ナル文字ノ意義ト不一致ニ陷レルモノニシテ誤解ノ起因ヲ爲スモノト謂フヘシ此ノ如キ曖昧ヲ防カンカ爲メニハ總テ被保險者ヲ以テ被保險利益ノ所有者タラシメ保險契約ノ利益ノ享受者タラシムルノ原則ヲ一般ノ保險契約ニ通シテ確定シ死亡生存ノ主體タル自體ハ恰モ物保險ニ於ケル家屋船舶等ト同一ト看做スヲ以テ適當ナリト思惟ス而シテ英國ニ於テハ此方法ニ從ヘリ

但我國ノ法律ハ獨逸ト同シク被保險者ヲ以テ契約ノ當事者ト看做サ、ルカ故ニ被保險利益ノ所有者ト曰ハシヨリハ寧ロ被保險自體ノ所有者タル資格ノ外一モ要求スル所ナシ例ヘハ既婚婦タルト未婚婦タルト成年者タルト未成年者

タルト禁治産者タルト否トヲ問ハサルカ如シ

此被保險者ハ原則トシテ被保險利益ノ所有者ナルカ故ニ之カ損傷ニ方リテ填補ヲ受クヘキ者即チ保險契約ニ由リテ生スル利益ノ享受者タラサルヘカラス我商法ニ於テモ損害保險ニ在リテハ此原則ニ協フヘク規定セラレ其第四百二條ニモ

保險契約者カ委任ヲ受ケスシテ他人ノ爲メニ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ其旨ヲ保險者ニ告ケサルトキハ其契約ハ無効トス若シ之ヲ告ケタルトキハ被保險者ハ當然其契約ノ利益ヲ享受ス

トアリ他人ノ爲メニ契約ヲ爲ス場合トハ被保險者以外ニ保險契約者アル場合ニシテ保險者ニ於テ之ヲ認メナハ被保險者カ當然其利益ヲ受クヘキ者ト定メタルナリ然ルニ生命保險ニ於テハ曩ニ言ヘルカ如ク被保險者ナル者ノ性質異ナレルカ故ニ此條文ヲ適用スルヲ得ス契約ノ利益ハ通常保險金受取人ナル名稱ヲ有スル者ノ享受スル所ト爲レリ而シテ此者ノ定メナキ場合ニハ屢々利益享受者ノ何人ナルヤヲ知ルニ苦シムニ至レリ

第三款 保險契約者

八〇

保險契約ノ目的ハ或利益ヲ有スル者カ其利益ヲ保全セシムル爲メニ之ヲ保險ニ付スルニ在リ而シテ利益ノ所有者ハ即チ被保險者ナルカ故ニ被保險者カ保險者ノ對手ト爲リテ契約ヲ締結スルヲ以テ至當ノ道理ナリトス然レトモ此ノ如キ嚴重ナル制限ヲ設クルトキハ保險ヲ利用スル點ニ於テ頗ル不便ヲ感スルノミナラス縱令利益ノ所有者タラストモ占有者若クハ類似ノ關係ヲ有スル者モ之カ損傷ニ因リテ損害ヲ被ルコト數々アルカ故ニ彼等ニモ亦保險契約ヲ締結スルノ權利ヲ與ヘ遂ニハ誰彼ノ論ナク自ラ契約者タラント欲スル者ハ毫モ之ヲ妨ケサルノ主義ヲ採ルニ至レリ我國ノ商法ハ即チ此主義ニ據リテ規定セラレ其第四百一條ニ

保險契約ハ他人ノ爲メニモ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ保險契約者ハ保險者ニ對シ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フ
トアリ而シテ保險契約者カ被保險者ト如何ノ關係ヲ有セサルヘカラサルヤハ毫モ制限スル所無ク全ク之ヲ自由ニセリ而シテ保險契約者タル以上ハ保險契

約ニ於ケル當事者ノ一方トシテ報酬即チ保險料ヲ支拂フ義務ヲ負フモノナリ
理論ノ上ニ於テ且物品保險ノ上ニ於テハ上述ノ如ク保險契約者ヲ全ク被保險者ト無關係ナル者ニ許シテ可ナルヘシ即チ保險契約ノ利益ヲ享受者ハ被保險者若クハ法律上制限セラレタル保險金受取人ナルカ故ニ利益ヲ受クルコトヲ得サル保險契約者カ惡意ヲ以テ契約ヲ締結スルカ如キ愚ナルコト有り得ヘカラス左レハ何人ニ保險契約者タルヲ許スモ毫モ弊害若クハ危險ノ生スル患無シト謂フヲ得ヘシ然レトモ生命保險ニ於テハ實際上甚々危險ナル結果ヲ惹起サスト謂フヘカラス何トナレハ生命保險ハ他ノ保險ノ如ク保險金ヲ制限スル所ノ標準ヲ有セス一ノ生命ニ付テ幾何金ノ保險契約ヲ締結スルコトヲ得ルカ故ニ保險契約者カ關係薄キ或ハ寧ろ關係ナキ人ヲ誘誘シ來リテ被保險者トシ巨額ノ保險金ヲ契約シテ之ヲ得ンカ爲メニ該被保險者ヲ害シ保險金受取人ト定メタル弱年無識ノ者ヲ誑カシテ保險金ヲ奪取スルノ弊アルヲ以テナリ故ニ少クトモ生命保險ニ付テハ保險契約者ト被保險者トノ間ニ親族若クハ財産上ノ關係ヲ必要トスルコトニ規定セシムルコトヲ望ムナリ

我舊商法ニ於テハ保險契約者ト被保險者間ニ財産上ノ利害關係ヲ要スルコトヲ規定セシカ新商法ハ前述ノ理論ニ由リテ此制限ヲ撤去セリ然レトモ保險契約者カ被保險者ニ知ラシメスシテ契約ヲ締結セントスル場合ニハ或ハ自ら其財産ノ所有者タルカ如クニ假裝シ被保險者ト詐稱シテ不正ナル保險契約ヲ成立セシメントスル恐レナキニ非ス故ニ商法ハ保險契約者カ他人ノ爲メニ保險契約ヲ締結セントスルトキニハ其旨ヲ保險者ニ通知セシメ之ヲ通知セザリシ場合ハ該契約ヲ無効ナラシムル旨ヲ規定セリ(第四〇二條)但保險契約者カ被保險者ノ委任ヲ受ケタル場合ニハ被保險者ニ於テ契約ノ存在ヲ知レルカ故ニ詐欺ノ行ハル、憂無ク隨テ之ヲ保險者ニ通知スル必要ナシ

保險契約者ハ保險者ノ相手方ト爲リテ契約ノ當事者ナルカ故ニ契約ヲ締結スルノ能力アル者ナラサルヘカラス故ニ法律上ノ無能力者ハ保險契約者タルヲ得ス彼等カ締結シタル契約ハ一般法律上ノ原則ニ據リテ不成立若クハ銷除セ得ヘキモノトス但保險契約就中生命保險契約ハ屢被保險者カ精神上ノ安穩ヲ目的トシテ行ハレ且着實溫良ナル思想ニ基キ加之大ナル原本ヲ利用シテ甚

シキ損失ヲ贖スヘキ性質ノモノニ非サルカ故ニ無能力者ノ或者ニモ保險契約者タルコトヲ許シテ大ナル弊害無シ例ヘハ婦カ夫ノ許諾ヲ得スシテ保險契約者タル場合未成年者カ後見人ニ依ラシテ目ラ契約ヲ締結セル場合ニ於テ外國ニハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ認ムル所アレトモ我國ニハ別ニ法規ノ存セサルヲ以テ無能力者ノ締結セル保險契約ハ總テ無効トセサルヘカラサルナリ

英國ニ於テ保險契約者ニ似テ一種特別ノモノアルカ故ニ參考ノ爲メ附記セントス即チ證券所有^{シヤ}者ニシテ被保險者以外ニ立チテ契約ニ對スル權利義務ヲ有スル者タリ權利トシテハ保險金受取ノ權利ヲ始メトシ義務トシテハ保險料支拂ノ義務ヲ有シ而シテ被保險者トハ如何ナル關係ニ於テ立ツテ問ハサルナリ而シテ火災海上其他ノ物品保險ニ於テハ保險契約ノ利益ヲ受クヘキ者ハ必ス被保險利益ヲ有スル者ナラサルヘカラサルカ故ニ被保險者以外ニ此種ノ者ヲ許サスト雖モ生命保險ニ在リテハ保險證券カ他ノ有價證券ノ如ク轉々讓與セラレ之ヲ讓受ケタル者カ保險契約ニ對スル權利義務ヲ有スルコトトナリ被保險利益ノ存在ハ契約成立ニ際シテノミ必要ナルモ其後ハ之ヲ要セストセリ此

ノ如キハ保險契約者並ニ保險金受取人ノ資格ヲ最自由ニシタル結果ニシテ流石ハ英國ノ放任主義ニ背カサルト同時ニ之カ爲メニ甚シキ弊害ノ發生セサルヲ見レハ又以テ保險ノ圓滿ニ實行セラレタ之カ徳義ノ極點マテ發達セルヲ想像シ得ヘキナリ

第四款 保險金受取人

損害發生ニ際シテ其害ヲ被ル者ハ利益ノ所有者タル被保險者ナルカ故ニ之カ填補即チ保險金ヲ受クヘキ者モ亦被保險者タラサルヘカラサルハ當然ナリ然レトモ生命保險ノ如ク被保險者ノ死亡ヲ損害トスルコトアル場合ニ於テハ保險金ヲ受クヘキ者已ニ死シテ在ラサルカ故ニ別ニ保險金受取人ヲ指定スルコトヲ得ルトシ我商法ニモ之ヲ明定セリ

第四百二十八條 保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者其相續人又ハ親族ナルコトヲ要ス
此規定ニ依ルモ又道理ヨリスルモ被保險者以外ニ保險金受取人ヲ定ムルコトヲ得ルハ必スシモ被保險者死亡ノ場合ニ限ラス生存中受取ルヘキ保險金ヲモ自

常各別ノ價格ヲ要求スルノミナラス需要者ノ事情ヲ察シ時々其要求スル價格ヲ變更シテ利益ヲ増加センコトヲ勉ムルコトアルヘシ例ヘハ鐵道會社ノ行フ所ノ臨時乘車賃ノ割引ノ如シ又專業者ハ一人ノ買手ニ對シテ數度ノ取引ヲ爲スニ當リテ初ハ高ク次ハ稍廉ニ又其次ニハ尙ホ一層廉價ニ賣却スルカ如ク其價ヲ二三ニシテ利益ノ増進ヲ計ルコトヲ得ヘキナリ

第三章 貨幣

第一款 貨幣ノ起源

古代文化未タ開ケサル時代ニ於テハ人々皆自ラ己ノ要スル貨財ヲ生産シテ之ヲ消費シ貨財交換ノ行ハル、コト甚タ少シ偶或種ノ貨物ヲ過剩ニ所有シタル時ニ當リテ他ニ之ヲ切望スル者アルトキハ其人ニ就キテ他ノ貨物ト交換シテ各自其慾望ヲ充タスコトアリ此ノ如ク直接ニ慾望ノ満足ニ充ツヘキモノ、交換ヲ物品交換トイフ而シテ此交換トハ左ノ不便アリ
一 需要ノ適合ヲ缺ク
二 物品交換カ二人ノ間ニ行ハル、カ爲ニハ各當事者ノ需要相互ニ適合スルコトヲ要ス例ヘハ甲ノ與ヘント欲スルモノハ乙ノ得シコ

トヲ欲スルモノタルト同時ニ乙ノ與ヘント欲スルモノハ亦甲ノ得ンコトヲ欲スルモノ爲ラサルヘカラス而シテ此ノ如キ場合ハ甚タ稀ナリ偶此ノ如キコトアリトスルモ人ハ容易ニ之ヲ知ルコト能ハサルナリ此不便ヲ救ハンカ爲ニ文明國ニ於テハ何人モ得ンコトヲ欲スル貨物ヲ以テ交換ヲ媒介セシム

二 價格ノ標準ヲ缺ク 交換ニ因リ利益ヲ得損失ヲ免カレンカ爲ニ豫メ物ノ價格ヲ知ルコトヲ要ス即チ各貨物カ他ノ貨物ニ對スル交換ノ割合ヲ知ルコトヲ要ス然ルニ物品交換ニ於テハ各貨物ヲ基礎トシテ之ト總貨物トノ交換ノ割合ヲ知ルノ必要アルカ故ニ種メテ複雜ナル相場附ヲ悉知スル必要アリ此事タル貨物ノ數増加スルニ隨ヒ益複雜ニ爲リ其煩ニ堪ヘサルヘシ然ルニ貨幣カ交換ノ媒介トシテ採用セラル、トキハ他ノ總貨物ハ生産者ヨリ消費者ニ達スル間ニ於テ通常一旦貨幣ト交換セラル、故ニ交換ヲ爲サントスル者ハ各貨物カ他ノ總貨物ニ對スル交換比例ヲ知悉スル要ナク單ニ各貨物ノ貨幣ニ對スル交換比例ヲ知ルヲ以テ十分ナリトス此ノ如ク一ノ貨物ヲ取リテ他ノ總貨物ノ價格ヲ計量スルトキハ各貨物間ノ價格ノ大小差違等ヲ明ニスルカ爲ニ頗ル便利

ナリ

三分割ノ手段ヲ缺ク 多數ノ貨物ハ其價格ヲ損スルコトナクシテ之ヲ分割スル能ハス穀物砂糖肉類氷塊ノ如キハ自由ニ之ヲ分割シテ其價ヲ損スルコトナシト雖モ衣服若クハ寶石ノ如キハ之ヲ分割スルトキハ大ニ其價格ヲ減少スルモノナリ故ニ是等ノ物ヲ以テ其價ノ一部分ニ當タル物品ト交換セント欲セハ甚シキ困難ニ遭遇セサルヲ得ス然ルニ此場合ニ於テ衣服若クハ寶石ヲ以テ貨幣ニ換ヘ其一部分ヲ以テ他ノ物品ト交換セハ頗ル便利ナリ右ノ如ク物品交換ニハ之ニ伴フ困難アルヲ以テ少シク交換ノ行ハル、ニ至ルトキハ一般ニ人ノ貴重スルモノニシテ保存ニ堪ヘ且販路ヲ有スル物ヲ以テ交換媒介ト爲シタリ

第二款 貨幣ノ職分

一 貨幣ハ交換ノ媒介タリ 物品交換ノ行ハル、ニハ各當事者ノ需要相互ニ適合スルコトヲ要ス例ヘハ甲ノ與ヘント欲スル所ハ乙ノ得ンコトヲ欲スル所ニシテ乙ノ與ヘント欲スル物ハ甲ノ得ンコトヲ欲スル物ナルコトヲ要ス然ルニ此事ハ甚稀ナルノミナラス此等ノ事情ヲ甲乙互ニ探知スルコト甚タ困難ナ

リ若シ貨幣ノ發明アルトキハ甲ハ其餘リアル物ヲ賣リテ貨幣ニ換ヘ之ヲ以テ己ノ欲スル物ヲ求ムヘク乙モ亦其餘リアル物ヲ賣リテ貨幣ニ換ヘ之ヲ以テ自己ノ得ント欲スル物ヲ購求スヘシ故ニ交換ハ最モ容易ニ行ハル、ニ至ルヘマ貨幣ノ此働キヲ稱シテ交換ノ媒介トイフ

今日經濟社會ニ於テハ各人其業ヲ分テ産業ニ從事シ各人ハ自ラ其需要スル物品ヲ全ク製造セサルカ又ハ僅ニ其一小部ヲ製造シ其製作品ヲ他ノ製作品ニ換ヘテ生活ヲ維持ス此場合ニ於テ各人カ自己特有ノ品物ニ換ヘテ受取ルコトヲ欲スル或種類ノ貨物アルニアラサレハ各自ノ需要ヲ適合セシムルコト能ハス隨テ分業制度ナルモノハ到底發達スル能ハサルナリ

二 貨幣ハ價格ノ標準タリ 貨幣ハ交換ノ媒介タルト同時ニ價格ノ標準トシテ用非ラレ他ノ貨物ハ常ニ貨幣ノ若干量ト交換セラル、カ故ニ此等ノ貨物ノ價格ハ皆貨幣ニ依リテ計算セラル、ニ至ル此ノ如ク一ノ貨物ヲ基礎トシテ他ノ總貨物ヲ計算スルニ至リテ始メテ數多ノ貨物間ニ於ケル價格ノ多少ヲ容易且明瞭ニ比較スルコトヲ得セシメ又ハ數多ノ貨物ノ集合ヨリ成ル財團ノ價格

等ノ觀念ヲ明ニスルコトヲ得ヘシ

三 貨幣ハ價格ノ本位タリ 文明ノ進歩ニ伴フテ貨幣ノ第三ノ効用發生ス商業ノ發達ニ伴フテ貸借益盛ニ行ハル或場合ニ於テハ貸與物ト同種ノ物品ヲ以テ返還セラル、コトアリ例ヘハ穀物ヲ借用シタルトキハ其同量ノ穀物ニ加フルニ穀物ノ利子ヲ附シテ返濟スルコトアリ然レトモ貸主ハ穀物ノ價格低廉ナルトキ又ハ之ヲ要セサル時ニ返濟セラル、ヲ好マス借主モ亦通常一人ヨリ借受タルコト能ハサルカ如キ多數ノ物品ヲ要スルコトアリ故ニ一般ニ貴重セラル、貨物ニシテ價格ノ變動少キモノヲ取リテ貸借ノ目的物ト爲スニ至レリ是ニ於テカ貨幣ハ價格ノ本位タル職分ヲ得タルナリ

註 Boeth-Bawerk 氏等ノ說ニ據レハ一國ノ生産力ノ發達スルトキハ之ニ伴フテ生産ノ手續キヲ完了スル期間延長スルモノナリ間接ニシテ迂遠ナル資本制度カ直ニ消費ノ資料ヲ得ル勞力制度ニ代ルモノナリ現任ノ仕事ハ過去ノ勞働ノ結果アリテ始メテ之ヲ行フコトヲ得ヘク現在ノ業務ハ未來ノ事業ノ豫備ニ過キサレモノ甚タ多シ隨テ時間ナルモノカ生産ニ大關係ヲ有スルニ

至レリ又分業制度及資本制度ノ下ニ在リテハ生産ト交換トハ相密着セテ離ルヘカラス又極端ニ云ハ、交換ハ生産手續ノ一部ナリトイフコトヲ得ヘシ而シテ此交換ハ契約ニ因リテ行ハル而シテ契約ハ結約ノ時ヨリ履行ノ時ニ至ルマテ一定ノ期間アルコトヲ通例トス是レ貨幣本位必要ノ起ル所以ナリ

四 貨幣ハ價格ノ貯藏タリ 人ハ時々其資産ヲ形體重量共ニ少キモノニ換ヘテ之ヲ保存スルノ必要ヲ感スルモノナリ例ヘハ其資産ノ一部ヲ遠隔ノ地ニ送り又ハ之ヲ携帶セントスルトキノ如シ而シテ最も能ク此要求ヲ充タス物ハ流通貨幣ナリ古來貨幣トシテ用非ラレタル貨物ハ其種類甚タ多シ家畜奴隸毛皮、油、煙草、干魚鹽、茶等ノ如キモ一度ハ貨幣トシテ用非ラレタルコトアリ其後次第ニ各種金屬ノ貨幣採用セラレタリ就中金銀ハ最も能ク此目ノニ適フモノナリトテ現今文明國ニ於テハ一般ニ之ヲ使用ス此ノ如ク古來貨幣トシテ使用セラレタルモノハ千態万様ニシテ其爲シタル職分ノ外均一ノ點ヲ發見スルコト能ハス故ニ今貨幣ノ職分ニ從テ定義ヲ下スコト左ノ如シ

貨幣トハ一般ニ交換ノ媒介價格ノ標準價格ノ本位價格ノ貯藏トシテ用非ラ

ル、所ノ貨物ヲイフ

第三款 貨幣ニ要スル性質

貨幣史ヲ通覽スルニ文化漸ク進ムニ隨テ金屬貨幣カ他ノ種類ノ貨幣ニ代リ金屬貨幣中金銀貨幣カ他ノ金屬貨幣ヲ驅逐シタルヲ見ルヘシ此事タルヤ畢竟各貨物ノ間貨幣ノ材料タルニ適スル程度相同シカラスシテ其性質ヲ十分ニ備フルモノハ然ラサルモノニ代リタルニ過キス貨幣タルニ適スル性質ハ左ノ七トス

- (一) 價格ヲ有スルコト 貨幣ハ有價物ト交換セラル、物ナルカ故ニ貨幣自身價格ヲ有スルヲ要ス又貨幣ハ價格ノ標準トシテ他ノ貨物ノ價格ヲ計量スルニ用非ラル、物ナルカ故ニ夫レ自身ニ價格ヲ有スルモノタラサルヘカラス尙ホ物ノ重サヲ量ルニ用非ラル、法馬カ一定ノ重量ヲ有シ物ノ長サヲ計ル尺度ニ一定ノ長サアルヲ要スルカ如シ此性質ハ各種ノ貨物之ヲ具有スルカ故ニ特ニ威種ノ貨物ヲ取リテ貨幣ト爲シ他ノ種類ノ物ヲ排斥スル理由ト爲ルモノニアラス

(二) 携帶ニ便ナルコト 貨幣ハ形體及重量ニ比シテ相當ノ價格ヲ有スルコトヲ要ス穀物、毛皮、煙草、油、銅、鐵ノ如キ價格ニ比シテ形體重量共ニ大ナルカ故ニ運搬ニ困難ナリ金剛石ノ如ク價貴クシテ形重共ニ小ナルモノハ紛失ノ虞アルヲ以テ共ニ不可ナリ

(三) 破損ノ患ナキコト 貨幣ハ商買上人々ノ間ニ授受セラレ且貯藏セラル、物ナルカ故ニ容易ニ破損滅失セサル物ナルコトヲ要ス玻璃ノ如キ破損シ易キ物アルコトノ如キ揮發シ易キ物動物質ノ如キ腐敗シ易キ物ハ皆之ニ適セサルナリ

(四) 物質ノ一樣ナルコト 貨幣トシテ用非ララル、貨物ハ其重量相同レキ物ヲ取ルトキハ常ニ同一ノ價格ヲ有スル物タルヲ要ス寶石若クハ動物ノ如キ各箇各部分其性質價格ヲ異ニスル物ハ貨幣タルニ適セサルナリ之ニ反シ金屬ハ精煉スルトキハ其物質皆一樣ナリ

(五) 分割シ得ヘキコト 貨幣ハ交換ノ媒介トシテ使用セラル、物ナルカ故ニ日常ノ取引ノ大小ニ應シテ之ニ適當スル價格ヲ有スル片塊ト爲スノ必要アリ

ニシテ借入ノ條件ニ於テ失敗セルモノト謂ハスンハ非サルナリ

丙 通常國債

通常國債又商業的國債ト曰ヒ多クノ著書ニ於テ所謂任意國債ト稱セラル、モノナリ余カ任意國債ノ下ニ愛國令債、契約國債、通常國債ト分類セシハ單ニ字句ノ末ニ付テ爭フニハ非ス此三種ヲ總稱シテ廣義ノ契約國債ト稱スルモ亦可ナリ三種共ニ應募者國家命令權ノ作用ニ由リテ強制セラル、コトナク各自自由意思ヲ以テ政府ト締結シタル契約タルニ於テ一タレハナリ唯特ニ政府ノ勸誘ニ基クモノト政府カ勸誘ニ基カスシラ或特定期人ニ對シテ契約ヲ結ヒシ場合ト不特定期人ニ對シテ契約ヲ結ヒシ場合ニ付キ此カ分類ヲ設ケニ過キサルナリ

通常國債トハ政府カ元金拂込高利子ノ歩合元金ノ償還ノ有無又ハ方法拂込ノ順序其他各種ノ體様ヲ公布シ不特定期人ノ自由意思ニ訴フルモノナリ政府強制力ヲ用フルナク勸誘手段ヲ行フコトナク其契約成立ノ如何一ニ各個人ノ利己心ニ委スルモノナリ故ニ其國債ノ成功ノ如何ハ一ニ金融市場ノ狀態政府ノ信

用ノ厚薄募集條件ノ體様ノ如何ニ存ス若シ其條件ノ體様カ普通ノ事業ヲ營ム場合ヨリ利益少キトキハ私人ハ其既ニ投下セル資本ハ之ヲ回收スルコトナク又未タ投下セサル資本ハ普通事業ニ吸收サル可ク若シ利益大ナルトキハ浮動ノ資本ヲ吸收スルノミナラズ又投下セル資本ヲモ回收スルニ至ル可キハ言フ俟タサルナリ是レ最モ合法ニシテ且公平ナル手段ニシテ現時國債ノ大部分ハ總テ普通國債ニ依リ通例世人ハ國債ナル意義ヲ以テ直チニ普通國債ト爲スニ至レリ其分類批評ハ便宜ノ爲メ之ヲ次節ニ譲リ其募集ノ如何ハ之ヲ國債募集ノ章ニ於テ詳述スル所アル可シ

第四節 流動國債ト確定國債

流動國債ト確定國債ノ區別ハ單ニ期間ノ長短ヲ以テ之カ標準ト爲スコトヲ得ス又其期間ト雖モ固ヨリ其間ニ絕對ノ區別存セルニハ非ス蓋シ二者ノ區別ハ其期間ノ長短ノ外ニ其募集ノ目的其體様ノ性質等ニ於テ大ニ其趣ヲ異ニセルモノアリ今二者ノ相異ナル點ノ重ナルモノヲ列擧スレハ次ノ如シ

第一 償還ノ時期ハ流動國債ニ在リテハ短期ニ限ラレ確定國債ニ在リテハ長

期ヲ例ト爲シ時ニ無期ノ場合ナシトセス但其長期ト云ヒ短期ト云フハ相對的ノ語ナルハ前ニ述フル所ノ如シ

第二 募集ノ目的ハ流動國債ニ在リテハ國庫一時ノ不足ヲ補ヒ又ハ一年度ノ不足ヲ補フカ爲メ後年度ノ收入ヲ以テ償還ヲ期シタルモノニシテ確定國債ニ在リテハ國家カ多少永續ノ國家ノ行動ノ資ニ供スルモノニシテ短期ノ收入ヲ以テ償還ヲ期シ難ク又ハ短期間ノ償還ヲ以テ不利ト爲スモノナリ

第三 支拂請求權ノ擔保ハ流動國債ニ在リテハ期限其他ノ條件ニ於テ廣ク認めラル、モ確定國債ニ在リテハ支拂請求權ノ効力少ク時ニハ全ク支拂請求權ノ存在セサルコトアリ所謂支拂請求權ノ小ナルコトハ確定國債ノ特徴ニシテ政府ノ信用上財政ノ整理上最モ便宜ト爲ス所ニシテ一方ニハ又償權者ニ於テ毫モ不利ヲ感セサル點ナリ

第四 元金利子ノ歩合其償還支拂等凡テ國債ノ體様ニ關シテハ流動國債ニ在リテハ變動常ナキヲ例トシ確定國債ニ在リテハ法規ノ下ニ其條件期限等明カニ制定セラル是レ確定流動ノ名稱アル所以ニシテ確定國債ハ有價證券トシテ

貨幣ノ効用ヲ有シ其支拂請求權ノ大小ヲ問フノ要ナキ所以ノモノ亦此ニ存ス
 第五 國債ノ性質ニ於テハ流動國債確定國債共ニ財政上ノ國債ナリト雖モ流
 動國債ニ在リテハ別ニ國家行政上ノ目的ニ出ツル債務ヲ包括ス所謂行政上ノ
 流動國債ト稱セラル、モノ是ナリ

第一款 流動國債

第一項 行政上ノ流動國債

行政上ノ流動國債トハ其額ノ一定セス期間ノ短期ニ限ラル、等流動國債ノ特
 質ヲ保有スルモ其國債自體ノ性質ハ以テ財政上一年度又ハ數年度ニ亘ル收支
 ノ適合ヲ目的トスルニ非ス其國債ハ政府カ財政上ノ機能ニ充ツルモノニ非
 スシテ單ニ行政上ノ目的ニ出ツルモノナリ故ニ其國債ノ大小ハ其行政ノ狀況
 如何ニ存シテ財政上ノ點ヨリ觀察スレハ全ク利害ノ外ニ超脱スルモノナリ隨
 テ財政上流動國債ハ本來收支適合論ノ下ニ論スヘキモノニ非スシテ又通常世
 人ノ傳唱スル國債其モノニ非ス行政上ノ目的ヨリ政府カ負フ所ノ債務ナリト
 ス

行政上ノ流動國債ニハ自働的ニ生スルモノト他働的ニ生スルモノトアリ自働
 的ニ生スルモノハ身元保證金俸給差引預金積立金裁判上ノ保證金等ニシテ形
 式實質共ニ行政上ノ國債タルモノ多シ他働的ニ生スルモノハ所謂郵便貯金其
 他預金ノ類ニシテ形式上純然タル行政上ノ國債タルモ實質上財政上ノ助力ヲ
 與フルコト尠シト爲サ、ルナリ

行政上ノ國債ニ付キ逐次之ヲ論述スルコトハ利益少ク且本論ノ要旨トスル所
 ニ非サルヲ以テ茲ニ身元保證金俸給差引預金及ヒ貯金ニ付キ其大體ノ概念ヲ
 述フルニ止メントス

身元保證金ハ行政上ノ目的ヨリ主トシテ官吏ニ強制スル行政上ノ債務ナリ金
 錢物品ノ出納ヲ爲ス官吏其職務取扱上故意又ハ過失ニ因リ政府ニ損害ヲ生セ
 シムルカ如キ危險ノ擔保トシテ就職ノ際政府ニ納付セシムル金員ニシテ其大
 小ハ一ニ職務ノ輕重種類ニ由リテ之ヲ定メ預金局ハ納付ノ日ヨリ一定ノ利子
 ヲ付シ退職後責任ノ解除ヲ俟チテ之ヲ返還スルモノナリ但保證金ノ種類ハ現
 金ノ外ニ確實ナル有價證券ヲ許スヲ例ト爲セリ工事又ハ物品請負人ノ身元保

證金ノ如キ又大體ニ於テ其趣ヲ一ニスルモノニシテ共ニ其額期間ノ變動常ナキ點ニ於テ行政上ノ流動國債タリ
 俸給差引預金トハ官吏在職中其俸給ノ幾分ヲ控除シテ在職中政府之ヲ強制保管シ一定ノ利子ヲ附シ退官又ハ死亡ニ際シテ之ヲ返還スルモノナリ即チ俸給差引預金ノ本旨ハ官吏カ一旦職務ヲ離レシ場合ニ於ケル困難ヲ減殺スルニ在リテ一種有期ノ預金ト視ルコトヲ得ヘシ然レトモ此種ノ預金ハ拂戻ヨリ預入ノ多キヲ原則ト爲スヲ以テ不意ニ巨額ノ引出ニ遇フノ危險少ク隨テ政府ハ實質上國庫融通ノ手段ニ供シ重ニ恩給資金トシテ之ヲ使用スルヲ常ト爲スモノナリ

貯金ハ行政上ノ國債ニシテ又實質上財政上ノ國債ノ用ヲ爲スモノナリ蓋シ政府カ貯金ノ制度ヲ設ケシハ主トシテ國民ニ貯蓄ノ念ヲ養成スルニ存ス故ニ貯金高ノ絶對的ノ増加ハ固ヨリ國家ノ望ム所ナリト雖モ相對的ノ増加トシテハ金額ノ大小即チ預入高ノ増加ヨリモ預ケ人ノ増加ヲ目的ト爲スモノナリ是レ一般ニ政府ノ貯金ニハ一人ノ貯入額ニ制限ヲ附シ又其金利ノ歩合ハ常ニ一般

市場ノ金利ニ比シテ低減セル所以ナリ乃チ政府ハ營業トシテ無制限ノ預入ヲ許シ金利ヲ高メテ民間ノ貯蓄銀行又ハ普通銀行ノ預金ト競争スルノ意思ナキコト明カナリトス

我國郵便貯金ノ制度ニ依ルモ貯金ノ預入ハ一人一口ニ限ラレ預入制限高ハ從來千圓ト爲セシヲ明治二十三年ヨリ五百圓トシ金利ノ如キモ明治八年ニハ三分ナリシカ一年毎ニ一分ヲ引上ケ明治十一年ニ至リテハ六分ト爲セタリ而シテ明治十四年ニ至リ之ヲ七分二分ニ爲シ明治十八年ニ及ンテハ之ヲ復舊シテ六分ト爲シ翌年之ヲ四分二分ニ引下ケ爾來此利率ヲ繼續シ遂ニ昨年四月ニ至リ六厘ノ引上ケヲ斷行セリ而シテ此等ノ利子ハ常ニ當時ノ民間ノ利子ニ比スレハ常ニ平均二分ヨリ三分ノ低利ト爲セルモノナリ

政府ハ一般國民ノ貯蓄ノ念ヲ養成セントスルニ拘ハラス金利ヲ低減シ預入高ニ制限ヲ置クハ一見相矛盾スルカ如キ觀ナシトナサ、レトモ蓋シ一方ニハ少クトモ政府ハ民間ノ銀行ト同一又ハ以上ノ利子ヲ以テ競争スルコト多額ノ支

出超過ヲ豫期スルニ非サレハ事實困難ナルノミナラス別ニ此等ノ不利益ノ條件ニ對シテ利益アル條件少シト爲サス今其重ナルモノヲ擧クレハ之ヲ絕對ノ利益條件ト相對的ノ利益條件トニ區別スルコトヲ得可シ

第一、絕對的利益條件 此ニ所謂絕對的利益條件ト稱スルハ主トシテ其機關普及ノ點ニ在リ蓋シ民間ノ銀行ハ皆營利ヲ目的トスルモノナルヲ以テ其取引高ノ稀少ナル處ニハ此カ機關ノ設備ヲ見ンコト固ヨリ期ス可カラス故ニ銀行ノ營利ノ方面ヨリ見レハ商工業ノ昌盛ナル都市ニノミ此カ機關ヲ設備センコト至當ノ事理ニ屬スト雖モ全國々民ヲシテ貯蓄ノ念ヲ養成セシメントスル政府ノ方面ヨリ見レハ又其不完全ナル可キコト言フ俟タス又營利ノ點ヨリ見レハ好望ノ地ト謂フ可キモ居常財産ノ安全ヲ保シ難キ地ニ於テ殊ニ然リト爲ス然ルニ政府ハ都鄙ヲ通シテ全國ニ普ク郵便局ヲ施設シ其業務ノ傍ラ貯金ノ事務ヲ附帶シテ經營スルヲ以テ僻陬ノ地ニアル者ニ對シテハ唯一ノ預金ノ機關タリ殊ニ臺灣ノ如キ財産ノ安全ニ付キ一般國民カ未ダ危懼ノ念慮ヲ懷抱セル土地ニ於テ然リト爲ス故ニ臺

灣等ニ在リテハ現ニ預金セル預入人ノ職業別又ハ預入高ヲ見ルニ官吏及ヒ軍人ハ預入人ニ於テハ六割弱預入高ニ於テハ八割強ヲ占ムルヲ見ルナリ是レ少クトモ政府ハ民間ノ金融機關ノ設備ナキ地ニ於テ此カ制度ノ存在ノ必要ナルコトヲ證明スルモノナリトス

第二、相對的利益條件 此ニ所謂相對的利益條件トハ主トシテ國家ノ信用ヲ指スモノナリ蓋シ民間ノ銀行ト政府ト相對照スレハ確實安全ノ點ニ於テハ政府ハ遙カニ勝ル所アルノミナラス未タ信用經濟ニ馴致セサル階級及ヒ政府ニ對シテ絕對的信用ヲ置ク階級ハ何レノ時ト所ヲ問ハス存在ス可キノミナラス又利子ノ多少ニ付テ利害關係ヲ置カサル者モ亦少シト爲ナス此等ノ團體ニハ下級團體ニ於テ殊ニ多ク又農業者官吏軍人等ノ多數ヲ占ムルモノナリ而シテ此等ノ團體ハ決シテ文化ノ進歩ニ伴ヒ減少セラレ可キモノニ非サルヲ以テ苟モ國家自體ニシテ信用ヲ失フニ非スンハ必スヤ國家ノ信用ヲ基礎トシテ或階級ニ付キ貯金ヲ獨占ス可キモノタル可キナリ

利子歩合ノ低減ト預入高ノ制限ハ上ニ述フル如ク決シテ貯金制度ニ於テ矛盾
 スル所アルヲ見サルノミナラス事實問題トシテ至當ノ事理ニ屬スルモノナリ
 隨テ利子歩合ハ常ニ市場金利一般ノ趨勢ニ伴ヒ昇降ス可キモ常ニ必スシモ一
 定ノ比率ヲ以テ朝令暮改スルノ要ヲ見ス是レ事務ノ進捗上重大ナル阻礙ヲ與
 フルノミナラス金利ハ常ニ一時ノ幻影トシテ高低常ナラサルモノナルヲ以テ
 全局ニ通シ大勢ノ趨ク所ニ從ヒ慎重ナル措置ヲ爲スコトヲ要ス是レ率テハ政
 府ノ威信ヲ損シ却テ反面ヨリ金融界ノ動搖ヲ誘導スルモノナレハナリ又預入
 高ノ制限ニ付テハ強ヒテ之ヲ存ス可キ理由ハ之ヲ見ルニ難ク唯貯金制度ハ國
 民貯蓄心ノ養成ノ爲メ多少ノ支出超過ヲ甘シテ經營スル所ニ係ルヲ以テ巨
 額ノ貯金ヲ爲スモノハ又一定ノ額以上特ニ之ヲ保護獎勵スルノ要ナク又此カ
 負擔ノ増加ニ堪ヘサル所ナリト云フニ存スルナル可シ然レトモ一方ニハ貯金
 制度ハ必ス支出超過ヲ豫期ス可カラス必スヤ利子ノ歩合貯金ノ利用貯金事務
 ノ經費等ノ上ニ於テ斟酌ヲ加ヘ此カ多少ノ收入超過ヲ豫期ス可キモノナレハ
 一定ノ制限高以上ノ預金ニ付テハ少クトモ積極ニ弊害アルモノト謂フ可カラ

ス近時各國ニ於テモ亦新ニ公債證書ノ購入保管制度ヲ開始シ以テ預高制限法
 フ實質ニ於テ破ルニ至レリ乃チ貯金預入ハ貯金ノ全部又ハ一部ヲ以テ政府ニ
 公債證書ノ購入及ヒ保管ヲ委託シ其證書ノ通數ニハ制限ヲ設ケサルヲ以テ公債
 證書ニ變形スルコトヲ條件トシテ無制限ニ預入ヲ爲シ得ルコト、爲レリ蓋シ
 政府ノ預リ金ハ變動的ノ國債ニシテ一方ニハ之ヲ流用シテ短期國債ノ募集ノ
 費用ト手數ヲ省畧シ得可キモノナルト同時ニ一方ニハ政府ノ意ヲ以テ之ヲ増
 減スルコトヲ得ス國家信用墜落セル時又ハ國民一般ニ預金拂戻ノ必要切迫ス
 ル時ハ一時ニ巨額ノ拂戻請求ニ遭遇スルコトナキヲ保セサルナリ故ニ此ニ對
 シテ公債證書購入保管ノ途ヲ開ケハ預ケ人ハ國債ノ利子ハ預入金ノ利子ヨリ
 多キヲ以テ益此カ貯蓄心ヲ増シ一方ニハ僻陬ノ地ニ居住スル者ヲシテ公債證
 書請求ノ便法ト爲ルヲ以テ益預リ金ヲ増加シ而モ政府ハ預金ヲ減少スルヲ以
 テ拂戻ノ請求ニ應スル克ハサルノ窮况ニ陥ルノ憂ナク又預入金ヲ公債證書ニ
 變更セシニ由リ其元金ヲ支拂フコトヲ要セサルヲ以テ他ノ公債證書ヲ償還セ
 ズ之カ爲メニ公債ヲ増加スルノ憂ナク流動國債ヲ減シテ確定國債ヲ増シ國債

ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルコトヲ得可シ
 我國ニテモ明治二十三年ヨリ公債證書購入保管ノ制ヲ施行シ三十年度ニ於テハ既ニ委託者二千九百餘人購入保管ノ額而現在高百二十三萬圓ニ上ルニ至レリ今後此方法ノ世人ノ周知セラル、ニ隨ヒ益々長足ノ進歩ヲ爲ス可キモノナル可シ

貯金ハ政府行政上ノ一手段トシテ必要ナルコト上述スル所ノ如シ殊ニ近時國家社會主義ノ熾盛ニ赴クト共ニ下級社會殊ニ勞働者ニ對シテハ強制的預入ノ制ヲ唱道スル者多ク工場條例其他勞働者ノ保護取締ニ關スル法令ニ於テ又各種ノ制度ニ依リ此主旨ヲ遂行セル者尠シト爲サス殊ニ英國始メ歐米諸國ニ於テハ又近時郵便貯金年金ノ制度ヲ設ケシ者アリ其概念ニ付テハ別ニ確定國債ノ綱目ノ下ニ叙述ス可キ機會アレハ此ニ之ヲ畧ス

郵便貯金獎勵ノ方法トシテ文書又ハ口述ニ依ル獎勵及ヒ勸誘ハ各國ヲ通行ハル、所ナレト別ニ貯金ノ取扱ニ關シテハ或ハ印紙稅ヲ免除シ或ハ一定ノ限度以內ノ貯金ニ對シテハ差押ヲ免除スル等各種ノ特權ヲ付與ス

ル者アリ近時又別ニ一定ノ金額以上預入ヲ爲セシ者ニ對シテ割増金ヲ付與スルコトアリ現ニ羽陽貯蓄銀行ノ如キ其例ヲ取ル者ナルコトヲ聞ケリ蓋シ割増金付與ノ方法ハ富籤ノ一變形ニシテ各國財政ノ整理セシ國ニ在リテハ法文ノ明カニ禁スル所タリ現ニ我勸業銀行ノ割増金附社債ニ付テモ學說ノ之ヲ非難スル者少シト爲サス其詳論ハ確定國債ノ節ニ叙述スル所アル可シ况ヤ貯金ノ如キハ其名ノ示スカ如ク國民ノ貯蓄心ヲ養成セントスルモノナリ換言スレハ國民ノ投機心ヲ抑壓セントスルモノナリ若シ單ニ預入高ノ多キヲ目的トスレハ割増金付與ノ方法ハ或ハ良策タル可キモ貯金本來ノ精神ヨリ云ヘハ自殺ヲ爲スノ手段ト謂ハスンハ非サルナリ

郵便貯金ハ其預入拂戻ハ大體ニ於テ變動少ク國庫ハ融通上大ナル利益ヲ得ルモノナリ現時我國ノ郵便貯金ハ未タ海外諸國ニ比シテ幼稚ナルモノナレトモ年々其歩武ヲ進メ一方ニハ民間ノ銀行殊ニ貯蓄銀行ハ各所ニ増設セラレシヲ見ルモ國民全體ニ通シテ其發達ノ程度更ニ大ナル可キコト論ナク政府貯金ノ

一部ハ又民間銀行ノ手ニ吸收セラレシモノ少シト爲サス蓋シ郵便貯金ノ
 貯入拂戻ノ狀況ハ等シク經濟界ノ變動ニ伴フモノニシテ戰時事變ニ際シテハ
 殊ニ此影響ヲ貯金ノ上ニ認ムルコトヲ得可シ乃チ我國ニ於テモ近時貯金ノ發
 達ハ一定ノ比率ヲ以テ其歩武ヲ進メシニ拘ハラス日清戰爭ノ開始セラレタ
 共ニ斯業ノ進歩ニ對シ著シキ變調ヲ呈シタリ今預金現時ノ狀況ト戰爭前後ノ
 關係ヲ統計ニ依リテ示セハ左ノ如シ

年 度	預 入 額	拂 戻 額	現 在 額
二十五年	1,295,457,771	1,473,638,221	826,060,240
二十六年	1,553,219,121	1,210,275,226	1,554,982,467
二十七年	1,451,891,473	1,093,259,901	1,324,233,366
二十八年	1,837,792,152	1,636,902,896	1,965,427,236
二十九年	1,708,911,178	1,830,200,282	1,972,218,683
三十年	1,367,453,717	1,340,705,255	2,575,425,620

第二項 財政上ノ流動國債

流動國債ノ主要ナル部分ハ財政上ノ流動國債ニ存シ財政上ノ流動國債ノ主要
 ナル部分ハ短期國債ニ存ス蓋シ短期ノ國債ハ歲計上一時ノ歲入不足即チ收入
 ニ先チテ支出ヲ要ス可キ所謂金庫上ノ不足又ハ歲入ノ減少若クハ臨時ノ歲出
 等ノ爲メ一年度ノ收支相償ハサル場合即チ所謂真正ノ不足アルニ際シ一年度
 内又ハ從來ノ三四年度ニ之カ償還ヲ期シ其年度ノ歲計ヲ結了スルヲ目的ト爲
 スモノナリ隨テ其不足ノ多寡ニ伴ヒ之カ國債發行額亦増減セラル、モノナリ
 所謂流動國債ノ名稱アル所以ナリ

蓋シ政府ノ歲計豫算ハ過去現在ヨリ未來ヲ忖度シ其年度ノ收支ノ狀況ヲ
 精査シ以テ此カ適合ヲ計ルモノナルヲ以テ主觀的ニ歲計豫算ニ重大ナル
 過誤アルカ客觀的ニ豫期ス可カラサル異常ノ事變發生スルニ非スハ年
 度ノ終リニ於テ大ナル過不足ヲ生スルコトナキモノナリ然ルニ同一年度
 内ニ於テ收入カ常ニ支出ニ先ツモノニ非スシテ一方ニハ俸給、廳費、國債利
 子等支出ノ時期確定セルモノ、外ニ天變其他豫期ス可カラサル事變ノ爲
 メ軍事警察其他衛生恤救土木等ノ內務行政ニ於テ不慮ノ支出ヲ要スル場

合アリ殊ニ國家自ラ諸般ノ營業ニ從事シ又地方行政體ニ對シテ資金ノ貸主タル地位ニ在ルヨリ豫算外ノ臨時支出ヲ爲スコト多キ佛蘭西ノ如キアリ而シテ一方ニハ經常收入ノ大部ハ常ニ一定ノ期限ヲ俟テテ始メテ國庫ニ收容セラル、モノナルヲ以テ結局其支出巨額ニ失スルコトナクシテ其年度間ノ收入ヲ以テ之カ適合ヲ計リ得キモノモ時期相前後スルカ爲メニ一時資金ノ必要ヲ見ルコト事理ニ於テ明カナリトス又時ニ由リテ歳入額豫算額ニ下ルコト多ク或ハ歳出額豫算額ニ上ルコト多クシテ到底其年度内ニ收支ノ適合ヲ計ルニ難ク所謂真正ノ不足ヲ見ルコト少シト爲サス然レトモ其額ハ未タ確定國債ニ依ルノ要ヲ見ルコトナク三四年間ニ於テ此ヲ償還スルコトヲ豫期シ得キ場合アリ總テ此等ノ場合ニハ或ハ特別借入ヲ爲シ或ハ紙幣ヲ發行セ或ハ短期國債ヲ發行シ以テ此カ收支ノ適合ヲ計ル可キコト最モ便宜ナル手段ト謂フ可キナリ

流動國債殊ニ財政上ノ流動國債カ財政上必要ノ手段タルコト正ニ上述スル所ノ如シ殊ニ一般ニ短期ノ國債ナルヲ以テ利子ハ確定國債ニ比シテ遙ニ低ク而シテ一方ニハ普通ノ指名債權ト異ナリテ賣買移轉ノ自由アルヲ以テ國民ハ放銀ノ手段トシテ最モ歡迎スル所タリ

然レトモ流動國債ニ伴フ通弊ハ此カ濫用ニ在リ若シ十分ノ成算ナクシテ流動國債ヲ増發スレハ其償還期限ノ短期ナルニ由リ其害毒又確定國債ニ比シテ大ナルモノアリ彼ノ佛蘭西ノ千八百四十八年ニ於ケル流動國債ノ如キ其適例ヲ示スモノナリ彼ノ財政紊亂セル西班牙、土耳其、埃及及ノ如キニ至リテハ其害毒皆官ニ入りテ又之ヲ救済スルニ由ナキモノ、如シ故ニ流動國債ハ常ニ成ル可ク狹隘ノ範圍内ニ限リ普通ノ行政事務費ノ如キ其年以内ニ支辨シ盡シテ負擔ヲ後ニ殘スコトナカラシメ貯蓄銀行ニ對スル預金地方行政體ニ對スル貸金ノ如キハ別途ノ會計トシテ取扱ヒ後者ノ如キハ之ヲ確定國債ニ組入ル、ヲ可トス「バスタープ」氏ノ如キハ流動國債ノ額ハ須ラク確定國債ニ對スル、一年ノ利子ヲ超過ス可カラス若シ確定國債ノ甚タ少額ナル處ニ在リテハ流動國債ハ歳入ノ四分ノ一ヲ超過ス可カラスト論セリ

蓋シ短期國債ハ收支ノ適合其序ヲ失フカ或ハ民力ノ疲弊其他天災地變ノ

爲メ豫定ノ收入ヲ得ル能ハサルカ或ハ政府ノ信用薄弱ナルニ由リ普通ノ國債ヲ募集シ能ハサル等財政上不幸ナル現象ニ起因スルモノニシテ革命前ノ佛蘭西西班牙土耳其埃及等ノ如キ何レモ此等諸原因ノ爲メ一時ノ急ヲ支フルニ切ナルノ餘或ハ擔保ヲ附シ或ハ特權ヲ付與シ或ハ非常ノ高利ヲ附シテ密カニ特別借入ヲ爲シ其期間ノ僅々數ヶ月ニ過キサル短期ノ借入ニ一割五分ヨリ二割五分ニ至ル高利ヲ附セシ例少ナシト爲サス隨テ償還期限ノ到來共ニ借繼ヲ爲スヲ例ト爲シ年々歳々新舊相累計シテ又拾收ス可カラサルニ至ル西曆千八百七十四年債權國ノ委員等土耳其ノ流動國債ヲ調査セントシテ竟ニ其額ヲ知ル克ハサルニ至リシカ如キ又一例ニシテ又彼ノ埃及ニ於ケル場合ノ如キ既ニ本章第二節第三款ニ於テ叙述セル所ノ如シ

本項ノ分類ニ付テハ先ニ短期借入大藏省證券及ヒ紙幣ノ三種ヲ掲ケ特ニ短期國債ニ付テ擧グル所ナシ蓋シ短期國債ハ有期確定國債ト殆ト其趣ヲ一ニシ唯其期間ノ長短ニ於テ特徴アルニ過キサルノミナラス所謂大藏省證券ハ短期國

債ノ一種ニシテ又事實其大部ヲ占ムルモノナルヲ以テノ故ノミ敢テ大藏省以外ノ短期國債ヲ認メサルニハ非サルナリ本項ニ於テハ短期借入バ第三節第二款任意國債ノ一種タル契約國債ノ下ニ於テ既ニ其大要ヲ掲ケタレハ茲ニハ主トシテ大藏省證券及ヒ紙幣ニ付キ叙述スル所アラントス

大藏省證券トハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ニ由リ發行スルモノトス明治十七年九月二十四號布告第一條參照大藏省證券ノ大藏省紙幣ト異ナルハ猶ホ商業手形ノ銀行紙幣ニ於ケルカ如シ大藏省又ハ銀行ノ紙幣ハ正貨ノ代用トシテ日用ノ流通ヲ資クルヲ目的トス其流通ノ機能ヲ全ウスル所以ノモノハ常ニ正貨ト兌換サレ得ル條件ヲ具フレハナリ商業手形又ハ大藏省證券ハ彼ノ確定證券ト抵當貸付及ヒ其他此種類ノ他ノ證券ト異ナリ一時ノ放銀ノ爲メニ流用セラル、モノナリ大藏省證券カ利子ヲ拂フハ短期貸付ニ於ケル利子ノ性質ヲ有シ即チ割引タルノ特色ヲ帶フ是レ長期貸付ノ利子ト相異ナル所以ナリ大藏省證券ノ發行ハ確定國債ノ如ク募集ノ方法ニ由ルコトアリ或ハ政府カ仕拂ニ當リ貨幣ノ代リニ之ヲ受取シムルムルコトアリ該證券ハ多ク二三ノ銀行ヨリ借入ル、

ヲ常トスルカ故ニ特別借入ト相似タル所アレトモ大藏省證券ハ何人ニテモ之ヲ授受賣買スルコトヲ得同布告第五條參照又其支拂ニ對シテ貨幣ノ代リニ證券ノ引受ヲ爲サシムル點ニ於テ異ナリ又其金額ハ毎年不足ノ多寡ニ伴フテ一定スル所ナク又之ヲ蔽フニ經常收入ヲ以テスル點ニ於テ確定國債ト異ナリ該證券ハ往時英國財政家ノ發明スル所ニシテ今日ハ各國皆此制ニ則リ財政ノ整理ヲ計ルニ至レリ是レ收支ノ時期ノ不適合ハ免カレザルノ數ナルヲ以テ其度々現金ナキノ故ヲ以テ支拂ヲ停止スルノ不便ヲ避ケ一方ニハ短期內ニ償却シ得ルヲ原則ト爲スヲ以テ確定國債ヲ起スノ煩ヲ避クルニ在ルハ先ニ叙述セル所ノ如シ我邦モ明治十七年九月第二十四號布告ヲ以テ大藏省證券條例ヲ發布シ其仕拂期日償還ノ方法ハ發行金額及ヒ利子金額等ハ豫メ規定セラル乃チ無記名利附定期拂トシ其發行シタル年度ノ歲入ヲ以テ仕拂フコト、爲レリ(第二條參照隨テ人民ハ一時不用ナル資金ノ放銀物トシテ確實且便利ナルカ故ニ此カ授受賣買又盛ニ行ハル支拂期限ハ通常三月六月九月十二月等ト爲スヲ例ト爲シ英佛等ニテハ一年ヲ超過スルモノ少カラズクリミヤ戰爭ノ當時英國

カ五ヶ年ヲ期間トセル大藏省證券ヲ發行セシム本論ノ始メニ於テ既ニ叙述セル所ナリ而シテ通常六ヶ月以下ノモノニ對シテハ利子ヲ附スル代リニ割引ヲ爲スヲ例ト爲セリ現行法ハ證券額面高ヲ百圓五百圓千圓五千圓一萬圓及ヒ十萬圓ノ六種ニ分チ其支拂期限ハ十二個月以內ト爲シ(第四條參照其支拂及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ之ヲ取扱ハシム(第六條參照)大藏省證券ハ財政上便利ナル方便ナリト雖モ物品買上ニ際シ該券ヲ以テ交付スルハ結局政府ノ不利益ヲ來ス可キコトハ本章第三節第一款中支拂強制國債ニ就テ論スル所ト相同シ而シテ現行法モ上述セル該券濫發ノ通弊ヲ制止センカ爲メ明治二十二年二月法律第四號會計法第九條ハ明カニ毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定ムル旨ヲ規定シ明治三十二年二月二十二日公布ノ明治三十二年度ノ豫算第四條ハ其最高額ヲ三千五百萬圓ニ限レリ

大藏省證券ニ付テ最モ歴史ヲ有スルハ英佛ノ二國トス此等ノ國ニ在リテハ漸次年ヲ逐フテ其額ヲ減少シ整理ノ歩武ヲ進ムルヲ見ル殊ニ英國ニ於

テハ西曆千六百九十一年ヨリ千七百十一年マテハ流動國債ハ常ニ確定國債ノ額ニ超過セシモ千七百十二年以後ハ確定國債ノ額ニ下リ千七百五十五年ノ如キ其高大ニ減少シテ僅ニ七百三十六萬五千圓ニ過サリキ然レトモ千八百七年ヨリ千八百十九年ニ至ル維也納會議ノ前後ハ再ヒ増加シテ四億圓ヲ昇降シ其後千八百四十年マテハ二億圓ヲ上下シ其後千八百六十二年マテハ一億六千萬圓ト二億圓ノ間ヲ昇降セリ(但シタリミヤ戰爭ノ時ハ二億八千萬圓ニ上レリ)爾後漸次減少シテ八千萬圓ヲ上ルコトナク率テ千八百七十四年ニハ四千四百八十萬圓ト爲リ僅ニ確定國債ノ千分ノ五ヲ占ムルニ過キタリキ然レトモ其後漸次再ヒ上騰シテ千八百七十七年ニハ一億四千萬圓ト爲レリ是レ露土戰爭スエス運河株券四千萬圓ノ買收等ニ起因スルモノニシテ其後印度亞弗利加等ノ事變ニ因リ猶ホ多少増加スルニ至レリ蓋シ英國ノ大藏省證券ハ數今年ニ亘ルモノ多ク我國ト大ニ趣ヲ異ニスル所アリトス

佛國ニテハ路易フヒリアツプ時代ニ流動國債大藏證券及ヒ貯蓄銀行ノ預リ

金ハ一億圓ヨリ三億圓ニ上リ西曆千八百四十八年ニハ革命政府之ニ代リテ又此カ處分ニ窮シ銀行預金ノ拂戻ヲ減センカ爲メニ其利子ヲ五分ト爲セシモ猶ホ此カ拂戻ヲ停止スルコト能ハス遂ニ之ニ對シテ公債證書又ハ大藏省證券ヲ付與シ猶ホ大藏省證券ノ期限ヲ延長シタリ然トモ此發行價格ト償却價格トノ差異ヨリ生スル利益ハ證書組換ニ因リテ直チニ現金ヲ得ル能ハサルノ不利益ト相償フニ足ラス大ニ人民ノ不平ヲ喚起シ政府財政ノ失態ヲ重スルニ至レリ其後猶ホ流動國債ノ總額ニ至リテハ千八百六十四年ノ如キ四億圓ヲ上リ千八百七十年ニハ猶ホ三億圓ヲ上下シタリ然レトモ大藏省證券ハ千八百四十八年ニハ一億一千三百萬圓ナリシモ千八百七十年ニハ三千六百萬圓千八百七十八年ニハ七百萬圓ト爲リ近時大藏省證券ハ人民ニ於テモ大ニ其利便ヲ感シ利子ハ期限ノ長短ニ由リ半半ヨリ一朱マテニテ自由ニ發行スルコトヲ得ルニ至レリ

蓋シ此種ノ流動國債ハ普通國債ヨリモ預ケ人カ現金取得上ノ便利アルニ由リ低キ利子ヲ以テ發行スルコトヲ得若シ此制ヲ全廢センニハ財政上必

ス別ニ相當ノ準備ヲ要スルカ又ハ年々相應ノ歲入剩餘ヲ殘サスニハ非ス
 然ルニ國庫準備金ノ弊害ハ既ニ第一章ニ於テ詳論スル所ニシテ此カ爲メ
 ニ永ク租額ヲ重課スルノ弊害ハ元利償却ノ爲メ一時租額ヲ増スノ弊害ニ
 比シテ遙ニ大ナルモノナリトス

紙幣ハ或ハ本紙幣ト準紙幣ニ分チ本紙幣ヲ一ニ狹義ノ紙幣國家紙幣又ハ本位
 紙幣ト稱シテ硬貨ノ代用ヲ爲ス價格ノ表章ヲ爲ス物ヲ指シ紙ヲ以テ作り強制
 的ニ通用シテ兌換ナキモノナリ所謂不換紙幣ト稱スルモノニシテ既ニ本章第
 三節第二款間接強制國債ノ下ニ詳述セシ所ナリ

準紙幣ハ紙ニテ作り價格ノ表章タルニ於テ一ナリト雖モ強制シテ通用セザル
 モノニシテ兌換ヲ得可キモノナリ不換紙幣ト準紙幣ノ中間ニ強制的ニ通用セ
 ナル不換紙幣ト強制的ニ通用スル兌換紙幣ノ二アリ其ニ準紙幣ト稱スルヲ例
 ト爲ス然レトモ通用ノ強制力ヲ有スルモノハ本紙幣ト同様ノ性質ヲ有スルモ
 ノニシテ等シク間接ノ強制國債タル可キナリ其就レニ屬スルヲ問ハス其金
 額ノ増減常ナク發行者ノ希望ハ短期間ニ回收スルニ在リテハ一ナルヲ以テ其

ンハ何ゾ之ヲ他ノ留置權ト區別スルノ要アランヤ賣却權ハ質權ノ主腦
 ニシテ其權利アルニ由リテ擔保ヲシテ益確實ナラシムルモノナリ故ニ
 近世諸國ノ法律ハ盡ク質權ノ制度ヲ認ムルト同時ニ賣却權ヲ以テ其主
 タル効果ト爲スニ至レリ

質權ハ通常其効果トシテ以上掲ケタル四種ノ權利ヲ生スルモノトス然レトモ
 質權者ハ設定行爲ニ因リテ三種以外ニ種々ノ權利ヲ取得スルコトヲ得サルモ
 ノト解スヘカラス質權者ハ法令ノ範圍内ニ於テ隨意ニ其他ノ權利ヲ取得スル
 コトヲ得ルモノタリ

民法第三百四十九條ハ所謂流質契約ニ關スル規定ニシテ債務者若シ流質契約
 ヲ總括シ債務ノ辨濟期ニ於テ辨濟ヲ爲サ、ルトキハ質物ハ直チニ債權者ノ所
 有ニ歸スルモノナリ是レ羅馬ノ「レタス、コンミツンリヤ」ニ起因セルモノニシテ
 我國ニ於テモ古來ノ慣習上流質契約ヲ以テ質權ニ伴フ効力ノ一ト看做シタル
 モノ、如シ然レトモ流質契約ノ制度タル質權者ノ爲メニハ極メテ利益アリト
 雖モ債務者ノ爲メニハ酷ニ失スルノ嫌アルヲ以テ近世ノ法律ハ皆明文ヲ以テ

流質契約ヲ禁止セリ我民法第三百四十九條モ亦此主旨ニ外ナラサルナリ
翻テ商法第二百七十七條ノ規定ヲ見ルニ商行爲ニ因リテ生シタル債權ヲ擔保
スル爲メニ設定シタル質權ニ付テ民法ニ於ケル流質契約ノ禁止ヲ解銷セリ是
レ流質ノ制度タル債務者ニ對シテハ稍苛酷ナリト雖モ資本ノ流通並ニ商取引
ニ於ケル取引ニシテ迅速且確定ナラシメンカ爲メ特ニ流質契約ヲ結フコトヲ
許セリ故ニ商法上ニ於ケル質權ノ効果トシテハ第五ノ効果トシテ流質及ヒ競
賣以外ノ方法ニ因ル競賣權ヲ加ヘサルヘカラス

第十一節 商行爲ノ履行

本節ニ於テ講セントスルモノハ民法第三篇第一章中ニ規定セル債務ノ履行ニ
關スル規定ノ例外規定ニシテ商法第二百七十八條乃至第二百八十三條ニ規定
セル所ノモノナリ

法律行爲ノ履行ニ付テハ先ツ當事者間ニ於ケル契約ノ約款ニ依ルヘキモノニ
シテ若シ當事者間ニ此ノ如キ契約カ明示若クハ暗黙ニ締結セラレサル場合ニ
於テ始メテ法律ノ規定ニ從フヲ以テ原則トス故ニ商行爲ノ履行ニ付テモ亦當

事者ノ意思表示ナキ場合ニ限リ民法及ヒ商法ノ規定ヲ適用スヘキモノナリ民
法ノ規定ニ付テハ既ニ諸君ノ知ル所ナルヲ以テ此所ニ贅セスト雖モ便宜ノ爲
メ民法及ヒ商法ノ規定ヲ對照シテ以下左ノ順序ニ從ヒ説明セントス

第一 履行ノ場所

第二 履行ノ時期

第三 債權ノ保全

(第一) 履行ノ場所 債務ヲ履行スヘキ場所ハ先ツ當事者間ニ於ケル明示又ハ
默示ノ契約若クハ行爲ノ性質ニ從フヘキモノナルコトハ商法第二百七十八條
ノ豫想スル所ニレテ若シ此ノ如キ特約等ナキ場合ニ於テハ左ノ規定ニ從フヘ
キモノトス

一 特定物ノ場合 特定物ノ場合ニ於テハ商行爲ヲ爲シタル當時其物ノ存

在セシ場所ヲ以テ履行ノ場所トス(商法第二七八條第一項)

民法第四百八十四條ノ規定ヲ見ルニ特定物ノ引渡ハ債權發生ノ當時其
物ノ存在セシ場所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナリ然ルニ商法第二百七十

八條ニ於テハ行爲ノ當時其物ノ存在シタル場所ニ於テ履行スヘキモノナルコトヲ定メタリ此ノ如ク民法ト商法ト其規程ヲ異ニスルハ如何ナル理由ニ基クモノナルカ余ノ解スル所ニ據レハ民法ノ規定ハ衡平ニ重キヲ置キ商法ノ規定ハ便宜ニ重キヲ置キタル結果ニシテ民法ニ於テ當事者ノ意思ヲ推測スルニ當リテハ成ル可ク各當事者ニ對シテ衡平ナラシメンコトヲ思ヒ商法ニ於テハ之ニ反シテ各當事者ニ對シテ便利ナラシメンコトヲ主眼トスルヲ以テ此ノ如キ規定ヲ異ニスルノ必要ヲ生セリ不特定物ノ場合 不特定物ノ場合ニ於テハ債權者ノ現時ノ營業所ニ於テ履行ヲ爲スヘク若シ營業所ナキトキハ債權者ノ住所ヲ以テ履行ノ場所トス(商法第二七八條第一項)

民法第四百八十四條ノ規定ニ依レハ不特定物ノ給付ヲ目的トスル債務ハ債權者ノ現時ノ住所ニ於テ之カ履行ヲ爲スヘキモノナリ然ルニ商行爲ヨリ生シタル債務ニシテ不特定物ヲ目的トスルモノニ付テハ民法ノ原則ヲ離ル、ノ必要アルカ故ニ商法第二百七十八條ノ規定アリ抑モ商

行爲ノ場合ニ在リテハ少クとも當事者ノ一方ハ商人ナルコト多シ而シテ商人ハ其營業所ヲ以テ營業ノ中心ト爲スモノナルヲ以テ營業所アル場合ニ於テハ先ツ其營業所ニ於テ履行スルヲ至當トス若シ營業所ニ於テ履行スルコトヲ許サ、ランカ債務ノ履行ハ常ニ債權者ノ現時ノ住所ニ於テ爲サ、ルヘカラス此ノ如キハ當事者双方ニ對シテ不便ナルノミナラス營業所ノ性質ニ反スル嫌ナリ且營業所ヲ以テ債務履行ノ場所ト定ムルモ毫モ當事者ニ不利ヲ來サ、ルヲ以テ我商法ハ獨乙商法ノ規定ニ倣ヒ債權者ニシテ營業所ヲ有シタルトキハ履行當時ノ營業所ニ於テ債務ヲ履行スヘク債權者ニシテ營業所ヲ有セザルトキハ民法ノ原則ニ立展リテ其住所ニ於テ履行スヘキコトヲ定メタリ

以上述フル所ハ債務ノ履行ニ關スル一般ノ原則ナリ此原則ニ付キ一ノ例外アリシハ商法第二百七十八條第二項ノ規定スル所ニシテ指圖債權無記名債權及ヒ民法第四百七十一條ニ規定セル債權ニノ適用スヘキモノナリ抑モ債權ハ之ヲ讓渡ノ點ヨリ觀察スルトキハ左ノ四種ニ區別

スルコトヲ得ヘシ

(一) 指名債權 即チ債權者ヲ指名セル債權

(二) 指圖債權 即チ債權者又ハ債權者ノ指圖人ニ對シテ履行スヘキ債權

(三) 無記名債權 即チ債權者ヲ指名セス單ニ證書ノ所持人ニ對シテ履行スヘキ債權

(四) 民法第四百七十一條ニ規定セル債權 即チ證書ニ債權者ヲ指名スルト雖モ其證書ノ所持人ニ對シテモ仍ホ履行スヘキ旨ヲ附記シタル債權

此等四種ノ債權ノ本質及ヒ効力ニ付テハ民法債權篇ノ講義ニ譲リ此所ニハ單ニ其如何ナルモノナルヤヲ大略説明セタルニ過キス

以上四種ノ債權中ニ於テ第一種ノ債權即チ指名債權ノ履行ハ債權者ノ現時ノ營業所ニ於テスルヲ原則トシ若シ此等ノ營業所ナキトキハ其住所ニ於テ履行スヘキモノナリト雖モ指圖債權無記名債權及ヒ民法第四百七十一條ニ規定セル債權ノ履行ハ債權者ノ現時ノ營業所ニ於テスルヲ

本體トシ若シ其營業所ナキトキハ其住所ニ於テ履行スヘキモノタルハ商法第二百七十八條第二項ノ規定スル所ナリ此ノ如キ債權ノ種類ニ由リ其履行ノ場所ヲ異ニスルハ各債權ノ性質ニ伴フ自然ノ結果ニシテ毫モ怪ムニ足ラサルナリ

指名債權ノ讓渡ハ民法第四百六十七條以下ノ規定スル所ナリ同條ノ規定ニ依レハ指名債權ノ讓渡ハ當事者ニ於テハ意思表示ノミヲ以テ完全ニ成立スト雖モ債務者又ハ其他ノ第三者ニ對シテ對抗セシカ爲メニハ讓渡人ニ於テ之ヲ債務者ニ通知シ又ハ債務者カ之ヲ承諾スルコトヲ必要トス加之債務者以外ノ第三者ニ對シテ對抗セシカ爲メニハ更ニ確定日附アル證書ヲ以テ通知又ハ承諾ヲ爲サ、ルヘカラス此ノ如キ指名債權ノ讓渡ヲシテ完全ナル効力ヲ有セシメンカ爲メニハ種々ノ手續ヲ要スルモノナリ然レトモ社會經濟ノ進歩ニ伴ヒ財產ヲシテ自由ニ運轉セシムルノ必要ヲ生シ簡易ナル方法ニ依リ讓渡スコトヲ得ヘキ債權ノ種

類ヲ生スルニ至レリ此種ノ債權中現今歐洲諸國ニ於テ盛行ハル、モ
ノハ指圖債權及ヒ無記名債權ノ二種ナリ
指圖債權ノ讓渡ハ裏書ニ依テ之ヲ爲スコトヲ得ヘク別ニ債務者ノ承諾
又ハ債務者ニ對スル通知ヲ要セサルモノナリ且指名債權ニ在テハ證書
ハ單ニ證據物件タルニ過キスト雖モ指圖債權ニ在テハ債權ノ範圍ハ一
ニ證書ニ依リテ定マリ債權ノ成立ハ毫モ證書ト離ル、コトヲ得サルモ
ノナリ

無記名債權ノ讓渡ハ單ニ證書ノ交付ニ依テ之ヲ得ヘク裏書ノ手續ヲモ
要セサルモノナリ且債權ノ發生及ヒ効力ハ證書ト分離スルヲ得ス其證
書債權タルハ指圖債權ト毫モ異ナルコトナシ

以上述フル所ニ依リ指圖債權及ヒ無記名債權ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ
之ヲ債務者ニ通知スルヲ必要トセサルノミナラス此等ノ債權ハ流通スヘ
キ性質ヲ有スルモノナルヲ以テ債務者ハ其證書ノ何人ノ手ニ存在スル
ヤヲ知ラス隨テ債權者ノ營業所又ハ住所ニ於テ履行セシメントスルハ

不能ヲ強フルモノト謂ハサルヘカラス故ニ我商法ハ第二百七十八條第
二項ノ規定ヲ設ケ同條第一項ノ例外ヲ設ケタリ

第四種ノ債權即チ民法第四百七十一條ニ規定セル債權ハ指名債權ニ非
ス無記名債權ニ非ス又指圖債權ニ非スシテ特種ノ債權ナリ故ニ其債權
ノ効力モ亦前三種ノ債權ト異ナラサルヲ得ス裏書ヲ要セスシテ單ニ證
書ノ交付ニ依リテ移轉スルノ點ニ於テハ無記名債權ト同一ナリ又其債
權者ヲ指名シタルニ拘ハラス簡易ナル方法ニ依リテ移轉スルヲ得ルノ
點ニ於テハ指圖債權ニ類スルモノナリ此種ノ債權ノ本質ニ付テハ種々
ノ說アリト雖モ余カ民法ヲ解スル所ニ據レハ我民法ハ此種ノ債權ヲ以
テ指名債權ナリトセス又指圖債權或ハ無記名債權ノ一種ナリト認メス
シテ此三種ノ債權ト相對立スル特種ナル債權ナリト認メタルカ如ク且
我民法ノ規定ニ依レハ此種ノ債權ハ指圖債權及ヒ無記名債權ノ中間ニ
位スルモノニシテ其本質ニ於テハ無記名債權ニ近ク其効力ハ指圖債權

以上述ハタルカ如ク第四種ノ債權モ亦證書ノ交付ニ依リ移轉スヘキモノナルヲ以テ債務者ハ殆ト其所持人ノ誰ナルヤヲ知ルコトヲ得ス故ニ無記名債權等ト同一ナル規定ヲ設クルノ必要アリ是レ商法第二百八十條ノ規定アル所以ナリ

終リニ臨ミテ履行ノ場所ニ付キ注意スヘキ一ノ點アリ本店以外ニ營業所ヲ有スル者カ其營業所ノ一ニ於テ取引ヲ爲シタル場合ニ於テ其取引ハ孰レノ場所ニ於テ履行スヘキヤノ疑起ルモノナリ我商法二百七十八條第三項ハ此場合ニ於ケル疑ヲ決スルモノナリ抑モ商人カ本店以外ニ支店ヲ設クルハ一方ニ於テハ支店附近ニ於ケル相手方ノ便益ヲ計リ一方ニ於テハ自己ノ便宜ヲ計リタルモノナリ故ニ支店ニ於テ爲セル取引ハ其支店ヲ以テ營業所ト看做シ其支店ニ於テ履行セシムルハ當事者ノ意思ニ適スルモノナルヲ以テ此ノ如キ規定ヲ生セリ

(第三) 履行ノ時期 履行ノ時期ニ付テモ亦履行ノ場所ニ關スル原則ト同一ノ原則行ハル、モノナリ即チ履行ノ時期ハ先ツ當事者ノ意思ニ依リテ之ヲ決ス

ヘク當事者間ニ何等ノ意思表示ナキ場合ニ於テ法律ノ規定ニ定ムヘキモノナリ

民法ノ規定ニ從フトキハ履行ノ時期ハ左ノ標準ニ依リテ決スヘキモノ、如シ

(一) 確定期限アルトキ 其期限ノ到來シタル時ニ履行スヘキモノニシテ若シ此時期ノ到來シタルニ拘ハラズ履行ヲ怠リタルトキハ別ニ何等ノ方式ヲ要セシテ其期限到來ノ時ヨリ遲滞ノ責ニ任スヘキモノトス

(二) 不確定期限アルトキ 不確定期限トハ其時期ノ到來スヘキコトハ確定セリト雖モ其到來スヘキ時期ノ確定セサルモノヲ意味ス而シテ此種ノ

期限アル債務ノ履行ハ同シク其期限到來ノ日ニ於テ履行スヘキモノナリト雖モ債務者ハ其期限ノ到來ヲ知ラサルコト多キノミナラス時トシテハ殆ト不能ノ事ナルヲ以テ其到來ノ日ヨリ直チニ債務者ヲシテ遲滞ノ責ニ任セシムルハ苛酷ナリト謂ハサルヘカラス故ニ其期限到來シタルコトヲ知リタルニ拘ハラズ猶ホ履行セサル時ヨリ遲滞ノ責ニ任スヘキモノトセリ

期限ヲ定メサルトキ 債務者ニ於テ履行ノ請求ヲ受ケタルニ拘ハラズ履行ヲ爲サ、ルトキハ其履行ノ請求ヲ受ケタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス指圖債權及ヒ無記名債權ニ於テモ或ハ履行ノ期限ヲ定メタルモノアリ或ハ之ヲ定メサルモノアリ民法ノ規定ニ依レハ期限ヲ定メサル場合ニ於テハ債權者カ履行ノ請求ヲ爲シタル時期ニ於テ履行スヘキモノナリ之ニ反シテ豫メ期限ヲ定メタル時ハ其期限到來ノ日又ハ不確定期限アルトキハ其期限ノ到來ヲ知リタル日ニ於テ履行スルコトヲ要ス而シテ若シ此等ノ日ニ於テ履行スルコトヲ怠ラシカ遲滞ノ責ニ任セサルヘカラス然ルニ既ニ述ヘタルカ如ク指圖債權、無記名債權及ヒ民法第四百七十一條ニ規定セル債權ニ在リテハ債務者ハ其債權者ノ誰ナルヤヲ知ルヲ得ス隨テ其債務ヲ履行スル能ハサルナリ而シテ是等ノ債務者ニ對シ期限ノ到來ノ日ヨリ直チニ不履行ノ責ヲ負ハシムルハ不能ヲ強フルモノナルヲ以テ商法第二百七十九條及ヒ第二百八十條ニ於テハ民法第四百十二條ノ除外例ヲ設ケ縱令期限ノ定メアルトキト雖モ指

圖債權無記名債權及ヒ民法第四百七十一條ノ債權ハ所持人カ其證書ヲ呈示シ履行ヲ請求シタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任スヘキコト、セリ

期間ヲ以テ定メタル期限ノ場合ニ於テ期間ノ末日カ一般ノ休業日ニ當リ且其日ニ於テ取引ヲ爲サ、ル慣習アルトキハ其翌日ヲ以テ期間満了ニ隨テ其日ニ於テ期限ノ到來スルコトハ民法第四百十二條ノ定ムル所ナリ故ニ商行爲ノ履行ニ付テモ亦此規定ノ適用ヲ免カル、能ハサルモノナリ

法律行爲ヲ履行スヘキ時間ニ付テハ民法中特別ノ規定ノ存在スルコトナキヲ以テ原則トシテハ債務者ハ何時ニテモ履行ヲ爲スコトヲ得ヘシ唯其例外トシテ當事者ノ意思表示ニ因リ其時間ヲ定メタル場合及ヒ債務ノ性質上或時間内ニ履行ヲ要スヘキ場合ニ於テハ其時間内ニ於テ履行スヘキモノタリ然ルニ近來文明諸國ニ於テハ商店ハ普通營業時間ヲ定メテ營業スルノ慣習アリ而シテ此等ノ慣習アルニ拘ハラズ營業時間外ニ債務ヲ履行スルコトヲ許ストキハ營業時間ヲ定メタル精神ト背馳

シ債權者ノ不便言フヘカラサルモノアリ故ニ獨乙等ニ於テハ商法中ニ履行ノ時間ニ關スル規程ヲ設ケ普通ノ營業時間内ニ於テ履行スヘキモノト定メ英國ノ如キモ之ニ類スル判決例アリテ實際取引時間以外ニ履行スルコトナシ我國現時ノ狀況ニ於テハ各種ノ商人中營業時間ヲ定メテ取引ヲ爲ス者ハ少ク通常ハ營業時間ノ定メナク取引スル者多シ然レトモ將來ニ於テハ營業時間ヲ定メテ取引ヲ爲ス者次第ニ増加セントスル傾嚮アルノミナラス地方ニ依リテハ現ニ營業時間ヲ設ケ取引ヲ爲スル慣習存在スルヲ以テ商法ハ之ニ關スル規定ヲ設ケ法令又ハ慣習ニ依リ一定ノ取引時間アルトキハ其時間内ニ限り履行ヲ爲シ又ハ履行ヲ請求スルコトヲ得トセリ(第二八三條)

(第三) 債權ノ保全 余カ茲ニ債權ノ保全ト題シテ講セントスル所ハ指圖證券及ヒ無記名證券ニ特殊ナル規定ノ說明ナルヲ以テ事口金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル指圖證券又ハ無記名證券ノ保全ト題スルヲ穩當ナリトス
民法施行法第五十七條ノ規定ニ依レハ指圖證券及ヒ無記名證券ヲ無効ナラシム

ルニハ公示催告ノ手續ニ依ルヘキモノナリ公示催告ノ如何ナルモノナルヤハ訴訟法ニ讓リ此處ニ說明セスト雖モ要スルニ請求若クハ權利ノ届出ヲ爲サシムルノ方法ニシテ權利者ニ於テ若シ此等ノ届出ヲ爲サハルトキハ權利ヲ喪失スルノ効果ヲ生スルモノナリ而シテ公示催告ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ハ各種ノ法律中ニ其規定アリテ法律ニ定メタル場合ニ非サレハ此手續ニ依ルコトヲ得サルモノナリ

指圖證券及ヒ無記名證券ノ所持人カ其證券ヲ失ロタル場合ニ於テハ公示催告ノ手續ニ依ルコトヲ得ヘシト雖モ除權判決ノ宣言アルマテハ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ス其履行ヲ請求スルヲ得ルニ先チ債務者ハ其目的物ヲ處分スルノ恐レアリ此ノ如キハ商業ノ安全ヲ妨クルモノナルカ故ニ商法ハ此場合ニ於テ債權者ニ與フルニ債權保全ノ權ヲ以テセリ

債權保全ノ權トハ商法第二百八十一條ノ規定スル所ノモノニシテ債權者ハ自己ノ選擇ニ依リテ左ノ權利ノ一ヲ行使スルコトヲ得

(一) 債務者ヲシテ其債務ノ目的物ヲ供託セシムルノ權

(二) 債務者ヲシテ證券ノ趣旨ニ從ヒ履行ヲ爲サシムルノ權但此權利ヲ行使スルニ當リテハ債權者ハ相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

第十二節 留置權

留置權ハ質權ト甚類似スルモ而モ此二者ヲ混同スヘカラス民法ノ規定ニ依レハ留置權者カ其權利ヲ行使スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス(民法第二九五條)

(一) 他人ノ物ヲ占有スルコト

(二) 其物ニ關シテ生シタル債權ヲ有スルコト

(三) 未タ其債權ニ付キ辨濟ヲ受ケサルコト

留置權ヲ行使スルコトヲ得ヘキ場合ハ債務者ノ所有スル物ト債權者ノ債權トカ必ス一定ノ關係ニ在ルコトヲ要ス然ルニ商業取引ヲシテ確實安全ナラシムルニハ其取引ノ擔保ヲ確實ナラシムルヲ可トス故ニ商法ニ於テハ民法ノ規定ニ反シテ留置權ノ範圍ヲ擴張スルノ主義ヲ採リ商法ニ於ケル質權ノ規定ト相俟ツテ以テ取引ヲシテ確實ナラシムコトヲ期セリ今商法ニ於ケル留置權行

○編輯上ノ用向ハ必ス編輯部宛ニテ通
信スヘシ

○質疑ハ半紙又ハ野紙ニ問題ト其疑點
トフ簡明ニ認ムヘシ

用紙ハ一問題毎ニ別紙ヲ用フヘシ
半切葉書又ハ他ノ用事ト共ニ認メダ
ル質疑ハ回答セズ

○落丁補充ノ請求ノ際ハ必ス其講義録
ヲ返戻スヘシ

○編輯用ト會計用トハ必ス別封タルヘ
シ

○葉書ノ場合モ之ニ準ス

明治三十三年十月九日印刷
明治三十三年十月十日發行

發行所
東京市四谷區四谷三丁目六番地
小田 幹治郎

印刷者
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地
金子 鐵五郎

印刷所
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地
金子 活版所

發行所
指定省
和佛法律學校

所在
東京市麴町區富士見
町六丁目十六番地
電話(番町百七十四番)

明治廿二年十二月九日內務省許可